東京都江戸東京博物館紀要　第13号　2023年３月
Bulletin of the Edo-Tokyo Museum, No. 13, pp. 61－88, March, 2023

「東京郷土資料陳列館」に関する企画展及び地域展 実施報告

松　井　かおる*

目　次

はじめに
１　江戸東京たてもの園企画展「東京郷土資料陳列館ものがたり
　　―東京の地域博物館 事始め―」実施概要
　（１）東京郷土資料陳列館の概要
　（２）「東京郷土資料陳列館ものがたり」展の概要
２　企画展「発掘された日本列島2018」地域展「東京郷土資料陳列
　　館と考古学」実施概要
　（１）地域展「東京郷土資料陳列館と考古学」の概要
　（２）各部構成の詳細
おわりに

キーワード　東京郷土資料陳列館　武蔵野郷土館　上水石枡　考古学模型標本

はじめに

江戸東京たてもの園（以下、たてもの園）では、前身の武蔵野郷土館（以下、郷土館）旧蔵の資料を公開する目的で、収蔵品展を開催している。筆者は平成24年度、江戸東京博物館（以下、江戸博）からたてもの園に異動してこの担当となり、前任の展示を引き継いで行ったが、25年度の収蔵品展では、郷土館やその前身の「武蔵野博物館（武蔵野市・井の頭自然文化園内）」の発掘調査を年表にまとめるなど、博物館活動の歴史も紹介した。また、関連事業として、郷土館で学芸員をされていた方や当時の発掘調査を知る方を招聘してシンポジウムを行って貴重なお話を伺い、当時の写真もご提供いただいた。この内容は『東京都江戸東京博物館紀要』第５号にまとめた[1)]。

これらの調査の過程で、郷土館、武蔵野博物館の前身にあたる博物館、「東京郷土資料陳列館」（以下、陳列館）が戦前、有栖川宮記念公園（東京市麻布区・現港区）内に、東京市によって建設されたことを知り、郷土館旧蔵資料のなかにこの博物館から引き継がれている資料が含まれていたことを発見した。平成26年度開催の収蔵品展（「下布田遺跡―武蔵野の歴史と考古学―」）では、郷土館前史として陳列館

*元東京都江戸東京博物館学芸員

を紹介し、同展の図録に収録した[2)]。さらに平成27年度の収蔵品展では、陳列館をテーマとする「東京郷土資料陳列館ものがたり―東京の地域博物館 事始め―」展（以下、陳列館展）と銘打ち、たてもの園に引き継がれている陳列館旧蔵資料及び関連の江戸博収蔵資料を、当時の展示項目に沿って、当時のキャプションも利用して復元的に展示した。

その後江戸博に戻り、平成30年度の企画展「発掘された日本列島2018」を担当した際、上記の成果等により地域展「東京郷土資料陳列館と考古学」（以下、地域展）を企画、実施した。

本稿では、陳列館展及び地域展の実施概要を報告し、現在もたてもの園に引き継がれている陳列館旧蔵資料の概要を紹介する。

1　江戸東京たてもの園企画展「東京郷土資料陳列館ものがたり―東京の地域博物館 事始め―」実施概要

（1）東京郷土資料陳列館の概要

1934年（昭和９）１月、高松宮宣仁親王は麻布区盛岡町及び広尾町（現港区南麻布）の御用地10,988坪を公園地として東京市に下賜した。東京市は市会の了承を得て、独特の公園特別経済制度による公園墓地積立金を財源として公園整備を行った[3)]。高松宮が有栖川宮威仁親王の命日を選んで下賜されたことから「有栖川宮記念公園」と名付けられた公園の整備計画では当初、100坪二階建ての東京市の市政博物館の建設が予定されたが、仮施設として、「東京郷土資料仮陳列館」が建設された【図１－１】[4)]。東京都公文書館所蔵の関係文書によれば、仮施設は木造平屋建て約40坪、外壁は杉の下見板張りにクレオソート（木材防腐剤）塗り、床は杉板張りにリノリウム敷き、柱には米松が使われ、屋根は方形四寸勾配の銅板張りのバラック建築【図１－２】で、同年11月17日、有栖川宮記念公園の開園と同時に開館した。

その後、1938年（昭和13）には収蔵資料の増加により、展示壁、倉庫の増設が行われ[5)]、日中戦争の激化により、1939年（昭和14）２月に制定された防空建築規則に対応して外壁がコンクリート造に改修され【図１－３】、休憩室、倉庫を増設して42坪となった[6)]。【図１－３】は1940年５月発行の陳列館パンフレット【図１－４】の表紙に使用されていることから、この時期の外観と思われる。

東京市は1932年（昭和７）10月、周辺５郡の編入により15区から35区に市域を拡げ、「大東京」となった。その２年後に開館した陳列館の展示は、市域拡張した東京市の現況と過去

【図１－１】有栖川宮記念公園開園時平面図
丸囲み部分が陳列館

【図１－２】開館初期の陳列館外観
丸囲み部分が入口（【図1－3】も同じ）

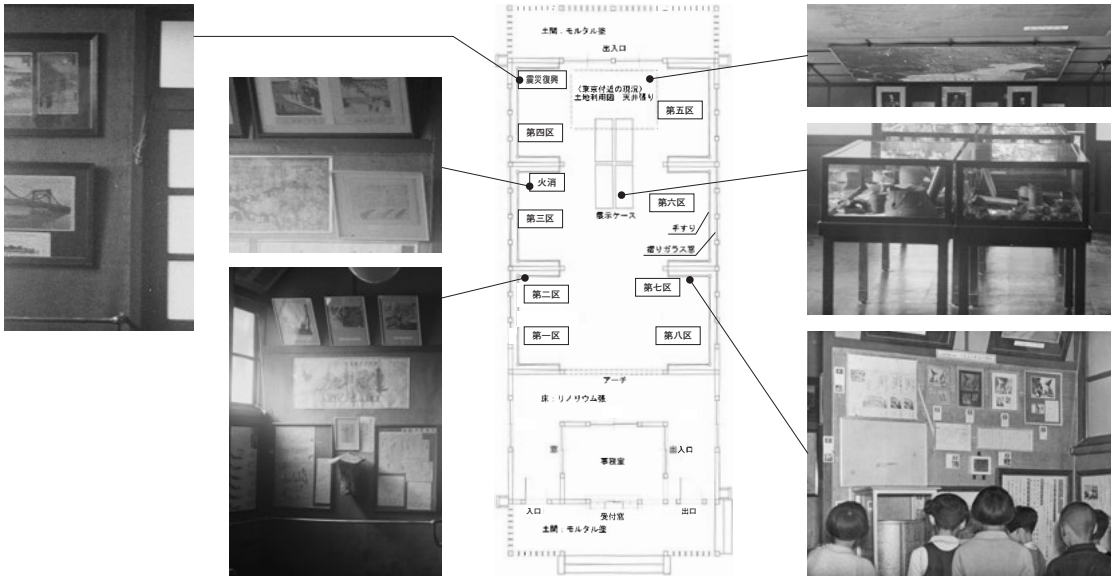
【図１－３】外壁改修後の陳列館外観

の概略を、小学生にも理解できるように、主として図表・写真・図面・年表・模型などを展示室の四周の壁面と陳列ケースに収めたもので、大部分は公園課職員の手作りであった[7)]。前掲のパンフレットによれば、展示室は第一区：東京の輪郭、第二区：自然界の状態、第三・四・五区：文化の発達、第六・七区：市政とその施設、第八区：産業の８ゾーンで構成されていた。【図１－５】は展示室内部の写真で、左側に第二区の展示がみられる。開設時の建築【図１－２】では入口の表示は右側の扉の上にあるが、改修時の建築【図１－３】では左側の扉の上に入口の表示が設置されている。【図１－５】では、左手前の衝立状の壁に第二区：自然界の状態の展示（市内の老樹名木分布図、野鳥の巣（標本）など）があることから改修後の時期の展示室内部の様子と思われる。前島康彦が著書『有栖川宮記念公園』（註３同書）で「場所が狭いので、天井まで利用し、ここに東京市が複製した伊能忠敬の江戸実測図を張り詰めてあったことを思い出すが、応急仕事の苦労がしのばれてなつかしい」と述べているとおり、【図１－５】の突き当り天井部分に地図が設置されている。【図１－５】と後述する【図１-14】、及び東京都公文書館所蔵の陳列館施工図面をもとに展示室内の状況と８ゾーンの展示配置を想定して作成したのが【図１－６】である。

【図１－４】陳列館目録（パンフレット）

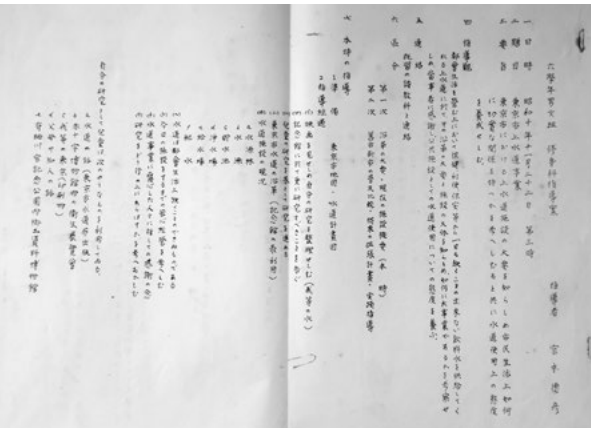
【図１－５】陳列館展示室

＊【図１－１】【図１－２】【図１－４】【図１－５】は、公益財団法人東京都公園協会所蔵



【図１－６】展示室内の状況と展示配置

陳列館は入場無料、年中無休で、専門職員（学芸員）２名が常駐しており、公園利用者や市内の小学生の団体見学に対応していた[8)]。入場者は1937年度には12万人[9)]、1939年度には16万人にのぼった[10)]。小学生の団体利用のなかには展示を利用して引率教諭が郷土教育の移動授業を行う例や小学生が展示資料を利用した調査や観察を行う例があった[11)]。その一例として、1935年（昭和10）、陳列館の徒歩圏にあった本村小学校の６年男女組の学童に向けて行われた修身科の移動教室（東京市上水事業）の授業案が封筒とともに陳列館旧蔵資料として引き継がれている【図１－７】【図１－８】。封筒の中には、授業時の様子と思われる写真【図１－９】【図１-10】、授業に用いたガリ版のワークシート【図１-11】、小学生のみで調査・観察する際のワークシート【図１-12】、展示室の第六・七区「市政とその施設」の「東京の新聞」コーナーを見学する児童の写真が入っていた【図１-13】【図１-14】。指導案によれば、この移動教室で教鞭をとっているのは宮本徳彦教諭で、11月22日の３時間目に陳列館の壁面に黒板を設置し、東京市の上水事業の沿革、水道施設の現況などについての授業を行った。当時、公園課は東京市保健局の下部組織だったので、これら資料は公園課の職員が移動授業の実施例として封筒に一括して保管したものが武蔵野郷土館まで引き継がれたと思われる。

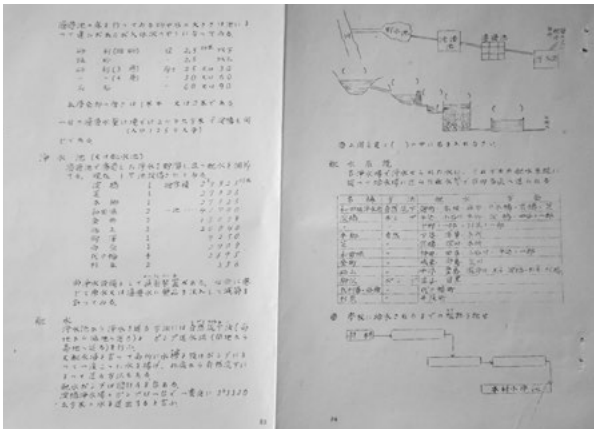


【図１－７】本村小学校移動教室　指導案

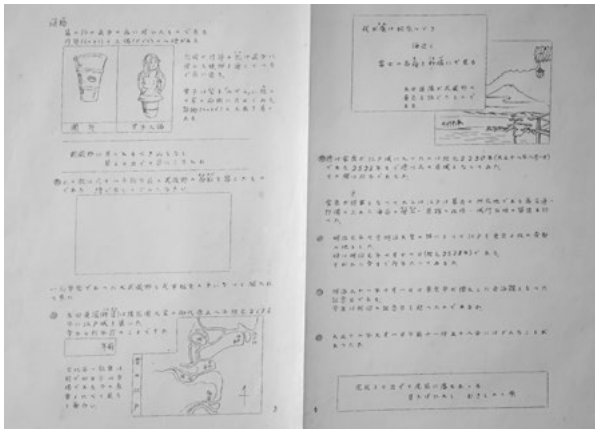
【図１－８】郷土資料陳列館利用教材封筒

【図１－９】本村小学校移動教室　上水道

【図１-10】本村小学校移動教室　徳川時代



【図１-11】移動教室ワークシート　上水道



【図１-12】小学生調査・観察用ワークシート

【図１-13】色刷新聞の出き上がる順序

【図１-14】東京の新聞と新聞が出来上がるまで

（２）「東京郷土資料陳列館ものがたり」展の概要

①開催概要

【会　　期】2015年（平成27）７月28日～2016年（平成28）２月21日

前期：2015年７月28日～10月25日

後期：2015年10月27日～2016年２月21日

【会　　場】江戸東京たてもの園企画展示室（東京都小金井公園内）

【展示構成】

プロローグ　東京郷土資料陳列館概要

第一章　**（第一区）東京の輪郭**　「大東京」のプロフィール

第二章　**（第二区）自然界の状態**　昭和10年頃の東京市の環境

第三章　**（第三・四・五区）文化の発達**　考古資料・歴史資料でたどる東京市のあゆみ

第四章　**（第六・七区）市政とその施設**　「大東京」を運営していた東京市

第五章　**（第八区）産業**　消費都市から生産都市へ

エピローグ　東京市の郷土玩具（前期）／照明の発達（後期）

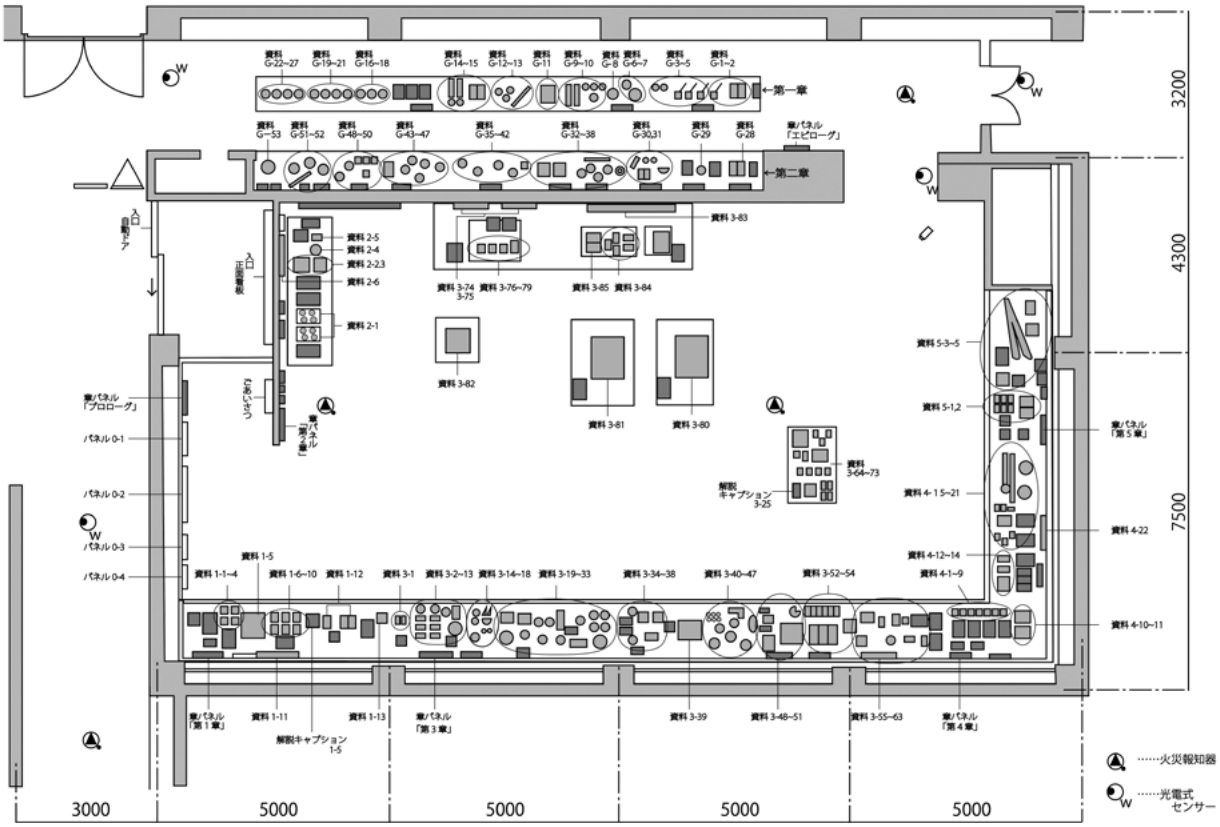
当時の陳列館展示を再構成した章立てとなっている。再現にあたっては、同館パンフレット及び展示室の写真をもとに復元的に構成した。**太字部分**が当時の展示区画と項目名。

②展示内容の紹介

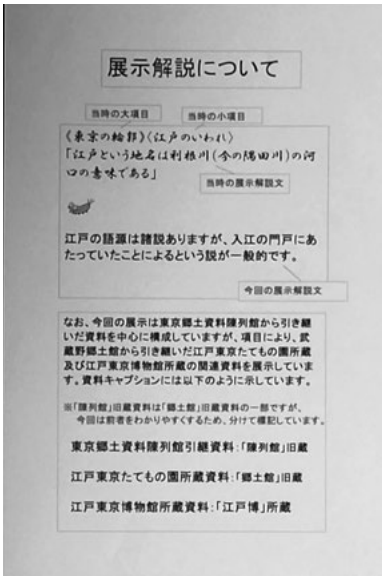
陳列館の旧蔵資料のなかに、展示区画、大項目、小項目、小項目を解説するキャプションをまとめた冊子があり、今回の展示では、たてもの園の企画展示室を陳列館の展示室に見立てて、この冊子をもとに当時の区画を章立てとしてゾーニングし、陳列館旧蔵資料はもちろん、当該項目に関連する郷土館旧蔵資料、江戸博収蔵資料も活用して資料を集め、小項目に沿って復元的に展示した。展示資料リストは【表１】、展示会場平面図は【図１-15】、陳列館展示項目とキャプションの対照表は【表２】にまとめた。また、本企画展で掲示したキャプションに当時の項目・解説情報を織り込み、その見方を解説したパネル【図１-16】も掲示した。以下、各章の展示の概要と組み立てるにあたって印象的だった資料について述べる。

第一章の小項目は、「江戸」（という地名）の起源、1932年（昭和７）に15区から35区に市域を拡大した「帝都大東京」、帝都のシンボル「帝国（国会）新議事堂」、「東京市・東京府のシンボルマーク」、「東京市歌」、「江戸の恩人太田道灌・徳川家康」で、これに対応する陳列館旧蔵資料はほとんどないが、江戸博の常設展示「モダン東京」コーナーとコンセプトが近いため、江戸博の所蔵資料でほぼ対応して復元できた。その他、東京市（府）は、江戸の礎を築いた偉人・恩人として、東京市庁舎（府庁舎兼用）のエントランスに太田道灌と徳川家康両人の銅像を設置していたため、この関係の江戸博所蔵資料（図書資料を含む）を今回の展示資料とした。唯一、陳列館旧蔵資料で対応できたのが、楢崎栄昭の版画「新帝国議事堂」【図１-17】であった。現在の国会議事堂の建築は、1918年（大正７）に着工したが、1923年（大正12）９月の関東大震災を挟んで、1936年（昭和11）11月に竣工した。この作品は1932年（昭和７）４月、渡辺版画店主催の第三回現代創作木版画展覧会に出品された作品で、東京市が収集し、陳列館開館時から展示していた可能性もある。なお、陳列館旧蔵の版画資料は複製を含めて40点あり、それぞれ裏面に同館のスタンプ【図１-18】が捺されている。

第二章は、東京市及び周辺の地形・地質、開館当時の東京市の気象、生息動物、植物に加え、先史時代の気候変化を物語る貝化石などが小項目として掲げられた。陳列館旧蔵資料として対応できたのは、17点の貝化石と複製版画「白雉図」のみで、地形・地質、当時の気象などは、当時東京府・市が刊行した

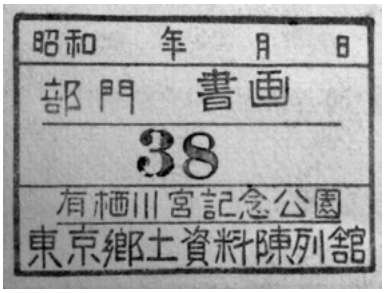


【図１-15】展示会場　平面図



【図１-16】
キャプションの見方パネル

【図１-17】
「新帝国議事堂」

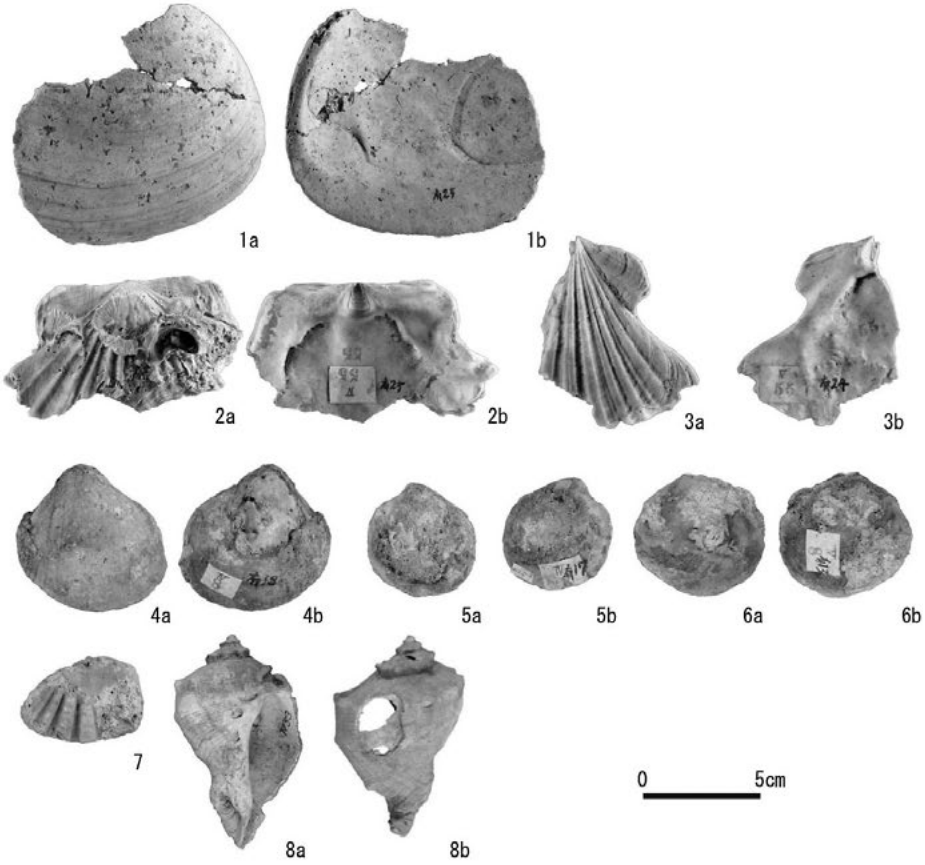


【図１-18】
裏面スタンプ

文献をもとにグラフを作成して展示し、その他の小項目は江戸博所蔵資料で対応した。貝化石については、本展における展示をふまえ、17点中８点について、化石の調査・研究を専門とするパリノ・サーヴェイ株式会社に分析・同定を依頼し、その結果をもとにパネル【図１-19】とキャプションを作成し展示した。なお、このうち４点は、貝殻の化石ではなく、泥に覆われた貝殻が長い年月で溶けてなくなり、貝の形に残る印象化石であった。江戸川公園は、江戸時代は肥後熊本藩主細川家の下屋敷、明治期には細川侯爵家の邸宅となり、その庭園部分が大正期に公園として整備された場所で、今から約12～13万年前の下末吉海進期（最終間氷期）の海底堆積物が、その後の海退により陸化した「東京層」が露出している場所としても知られており、「東京層」にはウバガイやトウキョウホタテなどの化石が含まれている。本資料の江戸川公園採取の貝化石はまさに、その典型を採取して展示していたことになる。また、複製版画「白雉図」【図１-20】は、「鳥類の繁殖地と渡り鳥」の小項目に対応する資料として額装して展示した。

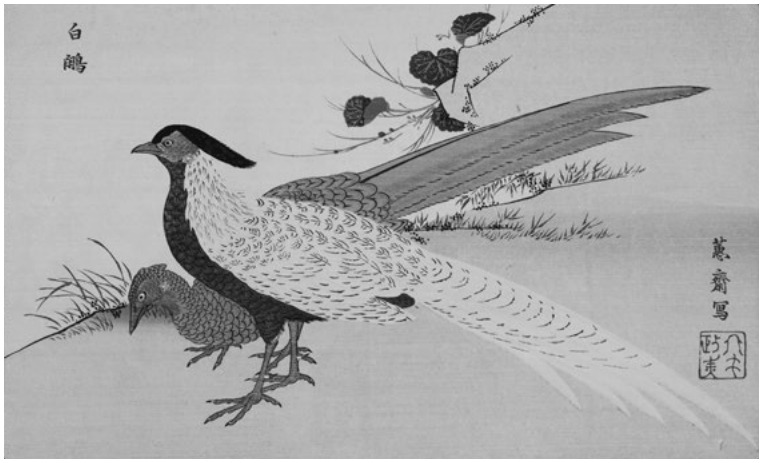
第二章の小項目でもっとも対応にてこずったのは、小項目「東京から見える山々」だった。手がかりとなる資料は残されておらず、日本登山の第一人者として知られている小暮理太郎が同名の著作を発表していることを、今回調べるなかで学んだ。小暮は東京市史編纂所で働く傍ら、登山家の視点で限られた好条件の下で東京市内の高所から見える山を調べてスケッチとともに発表した。第一弾は明治30年代から浅草凌雲閣、愛宕塔、赤羽台、高輪御殿山などで調査したものを1917年（大正６）、『山岳』という雑誌に掲載され、第二弾は、その後続けてきた調査の成果を1933年（昭和８）11月に霧の旅会大会で講演し、その速記録とイラストが1934年（昭和９）４月、雑誌『霧の旅』に「望岳都東京（ぼうがくとときょう）」と題して掲載された。浅草凌雲閣、愛宕塔が1923年（大正12）の関東大地震で倒壊するなか、観測場所を浅草松屋百貨店屋上、日本青年館屋上などに替え、赤羽台、六郷土手などからのスケッチも加えた。1929年（昭和４）１月、武蔵野会が日本橋三越百貨店で開催した「武蔵野の今昔展覧会」にこの一部が展示されたことから、武蔵野会を大正期に立ち上げた井下清が、首都東京は市内の高所から標高2000m級の山々が見える「望岳都」であることを示すため、小暮に依頼して、スケッチを陳列館に展示したものと思われる。今回の企画展では、1938年（昭和13）刊行の『山の想ひ出』の復刻版の付録から巻子のような横長のパネルと解説パネルを作成して展示した。

第三章は歴史系の小項目が並び、分量も多いことから、当時の展示の中心を占めていたものと思われる。このなかで、もっとも印象深い資料は1936年（昭和11）発行の「地図 大東京 史蹟名勝天然紀念物図示」である。江戸博が収蔵する本資料は左右二分割、それぞれタテ100.5cm×ヨコ79cmの大きな地図で、東京市内の地図の上に史蹟名勝天然紀念物保存法（文化財保護法の前身）の指定を受けた史跡等の地点がマークで図示されている。史蹟、名勝、天然紀念物のそれぞれの頭文字を、国指定（本指定）は◎（赤色）、東京府指定（仮指定）は○（赤色）で囲んで示されており、指定史蹟等の場所や分布状況が一覧できる。一方、たてもの園には、この地図を左右貼り合わせて巨大な掛図に仕立てたものが陳列館旧蔵資料として二点収蔵されている。紙が劣化して文字が読みとりにくくなっているこの掛図のうちの一点を、本展ではあえて展示した。それは、陳列館を建設した東京市公園課が当時、史蹟名勝天然紀念物保護行政を担当しており、文化財保護の重要性を知らせる目的で、この掛図を陳列館に通年展示していた可能性があり、陳列館の再現展示としての意義を感じたためである。



1. ウバガイ？左殻？(No. 2; 都立新江戸川公園 文京区目白台細川家下屋敷址）
2. トウキョウホタテ左殻 (No. 3; 都立新江戸川公園 文京区目白台細川家下屋敷址）
3. トウキョウホタテ右殻 (No. 4; 都立新江戸川公園 文京区目白台細川家下屋敷址）
4. トリガイ 印象化石 (No. 5; 品川駅前）
5. カガミガイ類 印象化石 (No. 6; 品川駅前）
6. カガミガイ類 印象化石 (No. 7; 田園調布旧多摩川園付近）
7. イタヤガイ科 印象化石 (No. 9; 田園調布旧多摩川園付近）
8. アカニシ (No. 10; 採取地不明）

【図１-19】貝化石・印象化石



【図１-20】白雉図

また、本展では、【図１－５】の写真のなかに、左奥の壁に額装で展示されていることが確認できる陳列館旧蔵の三枚組の版画、「いろは組 子供遊（複製）」【図１-21】を、小項目「江戸の消防組織」に対応する資料として展示した。江戸町火消の纏が勢ぞろいし、ところどころに梯子乗りの姿もみられるこの版画も、退色など劣化がみられ、陳列館で長く展示されていたことが想像される。

さらに小項目「当時の砲弾」に対応する資料として、大砲の砲弾【図１-22】を展示した。当時のキャプションには、「上野公園から発掘されたもので、湯島から打ち出した官軍側のものと推定される」と記されており、1868年（慶応４）５月に起こった上野戦争の時のものであることがわかる。

第四章の小項目は、そのほとんどが東京市の市政を分野ごとに紹介するもので、関東大震災からの復興事業完成を記念して1930年（昭和５）に発行された『帝都復興事業図表』の各ページ（河川港湾、橋梁、社会事業、道路、公園、社会事業など）がそのまま対応するデータとなるので、パネル化して、当時の解説文をキャプションとして展示した。

また、市政の一分野としての小項目「史蹟名勝天然紀念物」に対応する資料として、陳列館旧蔵の「津波警告之碑拓本」を軸装したもの【図１-23】とその関連資料を展示した。文化財保護法の前身、史蹟名勝天然紀念物保護法は1919年（大正８）に施行された。東京府は法律の普及のため、この前年、「第一回史蹟講習会」を開催し、この時に「津波警告之碑」が史蹟指定にふさわしい歴史資料として紹介された。1791年（寛政３）９月、深川洲崎一帯に襲来した高潮により家屋の流出、死者、行方不明者発生等、大きな被害が出たことから、江戸幕府は周辺の土地を買い上げて居住不可として碑を建てた。1922年（大正11）に東京市が刊行した『東京市史蹟名勝天然紀念物写真帖』にもこの碑が掲載されている【図１-24】。「津波警告之碑」は1923年（大正12）９月の関東大震災により倒壊し、壊滅的な被害を受けたが、東京府は1924年（大正13）３月、この碑を史蹟として仮指定し、1942年（昭和17）には国の史蹟に指定された。1945年（昭和20）の東京大空襲で再び被災した碑は３分の１の高さで残存している。陳列館旧蔵の碑の拓本は、被災以前の碑の状態を伝える、きわめて貴重な資料である。

史蹟指定関係の大判紙焼き写真（「品川台場」、「高輪大木戸址」、「小金井の玉川上水両岸の桜」など）、石碑の拓本（日本橋一石橋及び浅草寺仁王門前の「迷子報知石（まいごしらせいし）」の拓本を軸装したもの）も陳列館旧蔵

【図１-21】「いろは組　子供遊（複製）」

【図１-22】大砲砲弾

【図１-23】津波警告之碑　拓本

【図１-24】津波警告之碑
『東京市史蹟名勝天然紀念物写真帖』

資料として遺されている。

この章は紙資料とパネルが中心だったので、東京市の衛生事業（とくにし尿処理）の道具として江戸博所蔵の肥桶、汲み取り杓、東京市し尿汲み取り人夫証票、し尿汲み取り券などを展示した。

第五章は、東京の農業、東京の工業、東京の水産業など東京市の産業構造を示す小項目で、ほぼ江戸博所蔵資料を用いた。そのなかでも盛んにおこなわれていた海苔養殖の道具、海苔下駄と振り棒は郷土館旧蔵資料を活用して展示した。また、「中央卸売市場」の小項目に対応する江戸博所蔵の絵葉書、建築図集といった資料を展示した。江戸時代以来の日本橋魚河岸は関東大震災で壊滅的な被害を受け、築地への移転を余儀なくされた。一方、米騒動への対応策として1923年（大正12）、「中央卸売市場法」が制定され、小売市場への配給の円滑化、卸売価格引き下げを目的とする中央卸売市場が全国で進んだ。東京市では1935年（昭和10）、築地、神田、江東の３市場を設置した。

エピローグでは、企画展示室前のギャラリーを展示コーナーとして、前期は東京の郷土玩具、後期は明かりの道具を展示した。【表２】の大項目「東京市の郷土玩具」の項目解説文（当時）によれば、陳列館では、東京市の郷土玩具60余種の複製資料を展示し、そのうち、江戸趣味の視点で18種の郷土玩具の由来を解説した。展示室の中央奥に設置したのぞきケース内に展示していたと思われる。残念ながら、このときの資料は残っていないので、今回は郷土館旧蔵資料を活用して雑司ヶ谷鬼子母神のすすきみみずく、江戸姉様、柴又帝釈天弾き猿、今戸土人形（鉄砲狐、羽織狐など）ほかを展示した。後半は、例年、たてもの園で11月に開催するイベント「紅葉とたてもののライトアップ」の期間中、民家の中で行

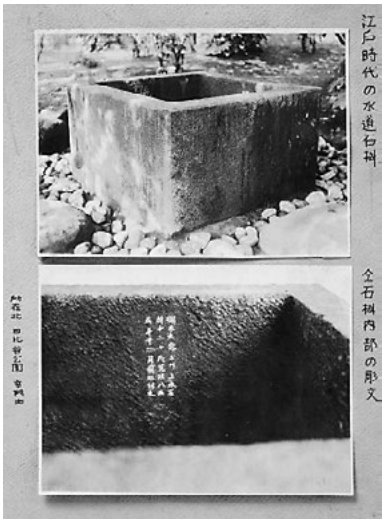
う「むかしのあかり体験」に合わせて、行灯、提灯、燭台、手燭、火打ち箱、がんどう、ランプ、室内ガス灯、電灯笠と電球など、郷土館旧蔵の資料を展示した。

③関連事業の紹介

本展覧会では関連事業として、2015年（平成27）９月22日、江戸の水道を研究されている肥留間博氏に講師を依頼し、ガイドツアー「遺された上水石枡」を行った。コースは以下のとおりで、都内５ヶ所の石枡関連史跡を巡った。

【１】清水谷公園集合　千代田区麹町出土石枡等を見学
【２】永田町組合樋筋　諏訪坂上⇒高桝（旧松平出羽守屋敷門前）⇒富士見坂上
【３】桜田門外　２系統の玉川上水結節点を見学
【４】日比谷公園　半蔵門内旧在の刻印付石枡（寛政８年）見学⇒園内２ケ所石枡を見学
【５】有栖川宮記念公園　石枡（半蔵門外旧在か）を見学⇒解散

関連事業開催のきっかけは、陳列館旧蔵の写真解説資料【図１-25】だった[12]。たてもの園では石枡と石樋を野外展示しているため、【図１-25】は園内の石枡の写真と思い込んでいたが、この石枡には刻文がなかった。台紙に所在地 日比谷公園幸門と記されていたので調査したところ、公園内の別の場所に設置されており、その他、園内２ケ所にも石枡が設置されていた。『公園文庫１：日比谷公園』のなかで、著者の前島康彦は、「園内には五ケ所の旧江戸城水道本管の石桝がある。」と記しているため[13]、公園のサービスセンターにも確認したが、現在は３ケ所とのことだった。その足で有栖川宮記念公園の陳列館跡地に行ったところ、陳列館入口脇と思われるあたりで上水石枡を発見した。距離は離れているが、たてもの園の資料を加えれば上水石枡は計５つとなり前島の記述と一致する。陳列館跡の上水石枡がどういう経緯で、いつから設置されているのかを知りたくて、肥留間氏に伺った。このことから、本展の関連事業としてガイドツアーが企画された。



【図１-25】江戸時代の水道石枡

なお、本関連事業の内容をもとに、肥留間氏には江戸上水枡に関する知見を論考としてまとめ、『東京都江戸東京博物館紀要』第13号に掲載いただくこととなった[14]。

【表１】「東京郷土資料陳列館ものがたり―東京の地域博物館 事始め―」展示資料リスト

資料番号	年代	平面図番号	資料名･タイトル	分類	サイズ	数量	備考
プロローグ　東京郷土資料陳列館概要							
		入り口正面看板	東京郷土資料陳列館室内	シート		１点	
		パネル0-1	有栖川宮記念公園	パネル	85×59.5	１点	
		パネル0-2	東京郷土資料陳列館	パネル	84×119	１点	
		パネル0-3	東京郷土資料陳列館　展示構成	パネル	84×59.5	１点	
		パネル0-4	解説パネル　凡例	パネル	47×31	１点	
第１章　東京の輪郭　「大東京」のプロフィール							
		パネル1-1	大東京の市域	パネル	29.5×21	１点	
		解説パネル1-1	江戸のいわれ	パネル	12.5×21	１点	
		解説パネル1-2	我等の帝都大東京	パネル	42×29.5	１点	
		解説パネル1-3	国会議事堂	パネル	29.5×21	１点	
88138029	昭和前期	資料1-1	近代建築の美を表はせる霞ヶ関新国会	絵葉書	9.1×14.1	１点	
09001367	昭和前期	資料1-2	新しい東京　国会議事堂	絵葉書	9.1×14.1	１点	
11000304	昭和前期	資料1-3	（国会議事堂）　貴族院･衆議院議場	絵葉書	9.0×13.8	１点	
11000309	昭和前期	資料1-4	（国会議事堂）　中央大ホール	絵葉書	9.0×13.7	１点	
94347399	1932年（昭和７）	資料1-5	帝国新議事堂	版画	36.2×24.8	１点	陳列館旧蔵　楢崎栄昭／画
		解説パネル1-4	市の紋章	パネル	20.5×21	１点	
88132569	［大正～昭和前期］	資料1-6	市の紋章を抱える日本橋青銅製の獅子	絵葉書	14×9	１点	
88130099	1932年（昭和７）	資料1-7	市の紋章中心にデザインされたポスター	絵葉書	14×9	１点	
88130081	昭和前期	資料1-8	東京市庁舎	絵葉書	9×14	１点	
88010285	昭和前期	資料1-9	奉祝旗セット（市の紋章）	小旗	8	２点	
97650031	1924年（大正13）	資料1-10	花電車　奉祝御成婚（市の紋章）	絵葉書	9.2×14.1	１点	
		解説パネル1-5	府の紋章	パネル	23×21	１点	
96201266	1929年（昭和４）	資料1-11	大東京鳥瞰図	地図	54.4×79.4	１点	
		解説パネル1-6	東京市歌	パネル	24.5×21	１点	
87975872-3	1923年（大正12）	資料1-12	東京市歌楽譜	テキスト	26.3×19.1	２点	
		解説パネル1-7	江戸の恩人　太田道灌と徳川家康	パネル	42×29	１点	
06605106	1936年（昭和11）	資料1-13	太田道灌公と東京市	パンフレット	23	１点	
第２章　自然界の状態　昭和10年頃の東京市の環境							
		解説パネル2-1	気象	パネル	42×29.5	１点	
		解説パネル2-2	一年間の降雨量	パネル	42×29.5	１点	
		解説パネル2-3	地質	パネル	42×29.5	１点	
		解説パネル2-4	東京市模型図	パネル	29.5×42	１点	
		解説パネル2-5	地形	パネル	29.5×42	１点	
		解説パネル2-6	市内の老樹名木	パネル	29.5×41.5	１点	
		解説パネル2-7	気候の変化を示す貝化石	パネル	42×29.5	１点	
		資料2-1	貝化石［ウバガイ］新江戸川公園（旧細川邸）	化石		１点	陳列館旧蔵
		資料2-2	貝化石 トウキョウホタテ（同上）	化石		１点	陳列館旧蔵
		資料2-3	貝化石 トウキョウホタテ（同上）	化石		１点	陳列館旧蔵
		資料2-4	貝化石 トリガイ印象化石（品川駅前）	化石		１点	陳列館旧蔵
		資料2-5	貝化石 カガミガイ類印象化石（同上）	化石		１点	陳列館旧蔵
		資料2-6	貝化石 カガミガイ類印象化石（多摩川園付近）	化石		１点	陳列館旧蔵
		資料2-7	貝化石 イタヤガイ科（多摩川園付近）	化石		１点	陳列館旧蔵
		資料2-8	貝化石 アカニシ（不明）	化石		１点	陳列館旧蔵
		パネル2-1	図版１　貝類	パネル	42×29	１点	
		パネル2-2	図１　武蔵野台地の地形区分と想定される試料採取位置	パネル	42×29.5	１点	
		パネル2-3	図２　山手台地の模式的な地質断面図	パネル	30×42	１点	
		パネル2-4	図３　山手台地の地質と化石産出地	パネル	30×42	１点	
		解説パネル2-8	多摩川と隅田川の魚類	パネル	29.5×21	１点	
99870478	［昭和後期］	資料2-9	隅田川の鰻掻き	色紙	24.3×27.2	１点	鈴木鱸生／画
99870592	［昭和後期］	資料2-10	原稿「鰻掻」	原稿	21.0×15.0	１点	鈴木鱸生／著
95011849	［明治時代］	資料2-11	めんこ　鰻を獲る２人の少年	めんこ	4.6	１点	
		解説パネル2-9	あまのり（標本）	パネル	21×21	１点	
91007523		資料2-12	あまのり　標本貼付絵葉書	絵葉書	14.0×9.0	１点	
		解説パネル2-10	ムラサキ（標本）	パネル	29.5×21	１点	
		解説パネル2-11	鳥類の繁殖地と渡り鳥	パネル	42×29.5	１点	
94347379		資料2-13	白雉図（複製）	版画	24.3×38.0	１点	陳列館旧蔵
		解説パネル2-12	東京から見える山々	パネル	29.5×42	１点	
		パネル2-5	山岳展望図 東京から見える山	紙	29.5×210	１点	「日本山岳会創立七十周年記念出版 覆刻　日本の山岳名著別巻　小暮理太郎　『山の想ひ出』」 付録
第３章　文化の発達　考古資料･歴史資料でたどる東京市のあゆみ							
		解説パネル3-1	貝塚	パネル	20×21	１点	
99345247	先土器時代	資料3-1-1	ポイント	石器	13.5×4.5×1.3	１点	陳列館旧蔵
99345248	先土器時代	資料3-1-2	ポイント	石器	13.7×3.8×1.1	１点	陳列館旧蔵
99345251	縄文時代中期	資料3-2	土器片：加曽利EI式（和田十二社後山）	土器	11.4×21	１点	陳列館旧蔵
99345252	縄文時代中期	資料3-3	土器片（多摩市連光寺）	土器	10.2×10.2	１点	陳列館旧蔵
99345253	縄文時代中期	資料3-4	土器片（小仙塚貝塚）	土器	11.7×14.7	１点	陳列館旧蔵
99345254	縄文時代中期	資料3-5	土器片（小仙塚貝塚）	土器	8.1×10.7	１点	陳列館旧蔵

資料番号	年代	平面図番号	資料名・タイトル	分類	サイズ	数量	備考
		解説パネル3-2	石器時代の遺物	パネル	9.5×21	1点	
99345255	縄文時代後期	資料3-6	土器片（馬込貝塚）	土器	5.7×6.3	1点	陳列館旧蔵
99345256	縄文時代後期	資料3-7	土器片（馬込貝塚）	土器	8.7×4.5	1点	陳列館旧蔵
99345258	縄文時代	資料3-8	土器片錘（千鳥久保貝塚）	土器	7.6×5.4×1.9	1点	陳列館旧蔵
99345257	縄文時代	資料3-9	小型鉢型土器（東山貝塚）	土器	3.5×3	1点	陳列館旧蔵
99345390	縄文時代	資料3-10	石皿（石畑村遺跡）	石器	21.5×19×5.6	1点	陳列館旧蔵
99345389	縄文時代	資料3-11	磨石（千鳥久保貝塚）	石器	7.3×6.8	1点	陳列館旧蔵
99345492	縄文時代	資料3-12	貝輪（複製）		10.7×8.2	1点	陳列館旧蔵
99345491	縄文時代	資料3-13	遮光器型土偶（複製）	土器	13.7×9.6×3.8	1点	陳列館旧蔵
		解説パネル3-3	石器時代の東京	パネル	39×29.5	1点	
99345392	弥生時代	資料3-14	壺型土器（飛鳥山公園内遺跡）	土器	10×24.5	1点	陳列館旧蔵
99345394	弥生時代	資料3-15	土器片（仙台山（九段坂上貝塚）	土器	6.9×5	1点	陳列館旧蔵
99345395	弥生時代	資料3-16	土器片（仙台山（九段坂上貝塚）	土器	8.3×2.3	1点	陳列館旧蔵
99345396	弥生時代	資料3-17	壺型土器（飛鳥山公園内遺跡）	土器	21.2×12.5	1点	陳列館旧蔵
99345393	弥生時代	資料3-18	壺型土器片：久ヶ原式（飛鳥山貝塚）	土器		3点	陳列館旧蔵
		解説パネル3-4	埴輪	パネル	35×29.2	1点	
99345397	古墳時代	資料3-19	壺型土器（大宮公園）	土器	15.5×10.6	1点	陳列館旧蔵
99345398	古墳時代	資料3-20	高坏型土器（大宮公園）	土器	10.4×7.7	1点	陳列館旧蔵
99345399	古墳時代	資料3-21	円筒埴輪（芝公園第一号古墳）	土器	19.6×13.6	1点	陳列館旧蔵
99345400	古墳時代	資料3-22	円筒埴輪（芝公園第一号古墳）	土器	11.8×9.6	1点	陳列館旧蔵
99345497	古墳時代	資料3-23	武人埴輪（複製）	土器	10.7×18.3×44.9	1点	陳列館旧蔵
99345496	古墳時代	資料3-24	武人埴輪（複製）群馬県尾島町世良田出土	土器	13.1×16.4×45.5	1点	陳列館旧蔵
99345494	古墳時代	資料3-25	円筒埴輪（複製）	土器	18.6×9.8	1点	陳列館旧蔵
	古墳時代	資料3-26	人物埴輪（複製）	土器	13.5×14.5×28.8	1点	陳列館旧蔵
99345495	古墳時代	資料3-27	人物埴輪（複製）鎌倉市采女塚遺跡出土	土器	28.4×18.3×11.1	1点	陳列館旧蔵
		解説パネル3-5	原始時代の遺物	パネル	12.5×21	1点	
99345502	古墳時代	資料3-28	須恵器　長頸壺（複製）	土器	17.4×24.5	1点	陳列館旧蔵
99345503	古墳時代	資料3-29	須恵器はそう（複製）	土器	9.9×12.5	1点	陳列館旧蔵
99345500	古墳時代	資料3-30	須恵器碗（複製）	土器	10×7	1点	陳列館旧蔵
99345501	古墳時代	資料3-31	須恵器偏壺（複製）	土器	12.8×14.5×7.8	1点	陳列館旧蔵
99345498	古墳時代	資料3-32	須恵器杯（複製）	土器	12×3.8	1点	陳列館旧蔵
99345499	古墳時代	資料3-33	須恵器杯（複製）	土器	11.5×3.3	1点	陳列館旧蔵
		解説パネル3-6	武蔵国分寺	パネル	6.5×21	1点	
		解説パネル3-7	国分寺瓦の色々	パネル	5.5×21	1点	
		解説パネル3-8	原始時代遺跡分布図	パネル	42×29	1点	
99345406	奈良時代	資料3-34	軒丸瓦（武蔵国分寺跡出土）	瓦	18.2×17.8×9.5	1点	陳列館旧蔵
99345419	奈良時代	資料3-35	軒平瓦（武蔵国分寺跡出土）	瓦	27.8×5.5	1点	陳列館旧蔵
99345415	奈良時代	資料3-36	国分寺瓦「父」（秩父郡）（武蔵国分寺跡出土）	瓦	8.5×9.8×3.5	1点	陳列館旧蔵
99345409	奈良時代	資料3-37	国分寺瓦「荏」（荏原郡）（武蔵国分寺跡出土）	瓦	14.7×14.5×2.5	1点	陳列館旧蔵
99345417	奈良時代	資料3-38	国分寺瓦「入」（入間郡）（武蔵国分寺跡出土）	瓦	13×19.9×2.5	1点	陳列館旧蔵
		解説パネル3-9	東京湾の海戦	パネル	6.5×21.5	1点	
96201908	1816年（文化13）	資料3-39	承久元年古江戸絵図	地図	31.0×56.5	1点	相州小田原北条氏時代之武州江戸図
		解説パネル3-10	江戸時代の遺物	パネル	5.5×21	1点	
99345479	江戸時代	資料3-40	焼締徳利	陶器	21.7×11.5	1点	陳列館旧蔵
99345475	江戸時代	資料3-41	灰釉刷毛目　碗	陶器	8.8×4.3	1点	陳列館旧蔵
99345476	江戸時代	資料3-42	灰釉徳利	陶器	23.1×10.9	1点	陳列館旧蔵
99345478	江戸時代	資料3-43	飴釉徳利	陶器	21.9×10.2	1点	陳列館旧蔵
99345470	江戸時代	資料3-44-1	泥めんこ	土器	2.3	1点	陳列館旧蔵
99345471	江戸時代	資料3-44-2	泥めんこ　三升紋（成田家の定紋）	土器	2.3	1点	陳列館旧蔵
99345474	江戸時代	資料3-44-3	泥めんこ　四文銭	土器	2.4	1点	陳列館旧蔵
99345469	江戸時代	資料3-44-4	泥めんこ　芥子面 ひょっとこ	土器	3.4×2.8	1点	陳列館旧蔵
99345472	江戸時代	資料3-44-5	泥めんこ　き組 矢羽根纏	土器	2.4	1点	陳列館旧蔵
99345467	江戸時代	資料3-44-6	泥めんこ　芥子面 獅子頭	土器	1.9×2.3	1点	陳列館旧蔵
99345477	江戸時代	資料3-45	鉄釉灯明皿	陶器	8.4×1.4	1点	陳列館旧蔵
99345481	江戸時代	資料3-46	煙管雁首	陶器	5.8	1点	陳列館旧蔵
99345480	江戸時代	資料3-47	焼締摺鉢	陶器	11.6×13.8×5.4	1点	陳列館旧蔵
		解説パネル3-11	五街道	パネル	94×59	1点	
		解説パネル3-12	江戸と参勤交代	パネル	9×21	1点	
94347365	1860年（万延１）	資料3-48	江戸名所四十八景 霞が関（複製）	紙	23.3×17	1点	陳列館旧蔵
		解説パネル3-13	松平定信の書	パネル	6×21	1点	
88130254	1918年（大正７）	資料3-49	松平定信の心願書（第一回東京府史蹟講演会記念）	絵葉書	9×14	1点	原資料：1788年（天明8）
		解説パネル3-14	大名屋敷瓦	パネル	5.5×21	6点	
00002923	1857年（安政４）	資料3-50	尾張屋版江戸切絵図　御江戸大名小路	絵図	49.3×53.8	1点	土佐藩邸と家紋掲載
99345456	江戸時代	資料3-51	土佐柏文軒丸瓦	瓦	11.1×4.4	1点	陳列館旧蔵
		解説パネル3-15	江戸時代米穀輸送路	パネル	81×59.5	1点	
		解説パネル3-16	江戸時代の消防組織	パネル	7×21	1点	
94347377	江戸末期	資料3-52	いろは組子供遊（複製）	版画	35.8×74.5	1点	展示室内写真で展示確認 陳列館旧蔵
		解説パネル3-17	江戸十大火災図	パネル	6×21	1点	
		資料3-53	江戸時代の主な火災における延焼図	紙		1点	陳列館職員作成

資料番号	年代	平面図番号	資料名・タイトル	分類	サイズ	数量	備考
		解説パネル3-18	火事の瓦版	パネル	5.5×21	1点	
88208544	1829年（文政12）	資料3-54	神田佐久間町火災瓦版	瓦版	47.2×64.2	1点	
		解説パネル3-19	東京湾の国防史蹟品川台場	パネル	6.5×21	1点	
93201837	江戸末期	資料3-55	江戸湾岸及び品川沖　埋立小台場略図	絵図	33.5×45.5	1点	
95203023	江戸末期	資料3-56	品川壱番御台場内側の図	古文書	28.6×39.2	1点	
		解説パネル3-20	上野戦争と彰義隊	パネル	7.5×21	1点	
91003078	［江戸末期］	資料3-57	旧幕台場砲模型	模型	12.5×21×6.2	1点	
	1868年（慶応４）	資料3-58	大砲（四斤山砲）砲弾（上野公園遺跡）	金属	16.7×8	1点	陳列館旧蔵
		解説パネル3-21	戦争後の上野	パネル	7×21	1点	
88005767	1868年（明治１）	資料3-59	上野寛永寺 戊辰戦禍後写真　「温古写真集」	写真	16×11.7	1点	
88200411	1868年（慶応４）	資料3-60	上野戦争時の官軍の攻撃を伝える瓦版	瓦版	23×57.7	1点	
		解説パネル3-22	東京奠都	パネル	7×21	1点	
88130163		資料3-61	奠都時の行列	絵葉書	9×14	1点	
88130161		資料3-62	奠都当時の服装	絵葉書	9×14	1点	
		解説パネル3-23	江戸城明渡談判	パネル	6×21	1点	
88138311		資料3-63	勝海舟（川村清雄画「江戸城明渡の帰途」）	絵葉書	14×9	1点	原資料：明治前期
		解説パネル3-24	勝海舟の書	パネル	6×21	1点	
	1892年（明治25）	パネル3-1	勝海舟の書	パネル	30×65	1点	
		解説パネル3-25	名園	パネル	7×21	1点	
90006431		資料3-64	旧芝離宮恩賜庭園案内	パンフレット	23.2×31	1点	
88138313		資料3-65-1	旧芝離宮庭園絵葉書	絵葉書	9×14	1点	
88138315		資料3-65-2	旧芝離宮庭園絵葉書	絵葉書	9×14	1点	
88138319		資料3-65-3	旧芝離宮庭園絵葉書	絵葉書	9×14	1点	
88138320		資料3-65-4	旧芝離宮庭園絵葉書	絵葉書	9×14	1点	
08650058		資料3-66	GHQによる接収候補地調査空撮写真　赤坂離宮	写真	9.6×12.7	1点	
88103259		資料3-67	赤坂離宮庭園	絵葉書	9×14	1点	
88103239		資料3-68	浜離宮絵葉書	絵葉書	9×14	2点	
11002068		資料3-69	六義園観覧券	チケット	6.2×5.4	1点	
01000051		資料3-70	東京砲兵工廠内後楽園入口唐門	絵葉書	9.1×14.1	1点	左甚五郎／作
88977046		資料3-71	旧安田庭園案内	パンフレット	23.1×15.3	1点	
90006439		資料3-72	大正記念館と清澄庭園案内	パンフレット	22.5×31.3	1点	
88138737		資料3-73-1	清澄庭園絵葉書	絵葉書	9×14	1点	
88138440		資料3-73-2	清澄庭園絵葉書	絵葉書	9×14	1点	
88138441		資料3-73-3	清澄庭園絵葉書	絵葉書	9×14	1点	
		解説パネル3-26	史跡名勝天然紀念物	パネル	33×28.5	1点	
		パネル3-2、3	津波警告の碑　拓本	パネル		2点	
94347311		資料3-74	津浪警告の碑　正面・二面拓本	軸装	206×68	1点	陳列館旧蔵
94347312		資料3-75	津浪警告の碑　背面・四面拓本	軸装	206×68	1点	陳列館旧蔵
88130256	1918年（大正７）	資料3-76	欅大門（府中）大欅：周囲約三十尺（第一回東京府史蹟講演会記念）	絵葉書	14×9	1点	
88130255	1918年（大正７）	資料3-77	旧島津邸表門（第一回東京府史蹟講演会記念）	絵葉書	9×14	1点	
88130257	1918年（大正７）	資料3-78	津浪警告之碑　深川平富町河岸（第一回東京府史蹟講演会記念）	絵葉書	14×9	1点	
88130253	1918年（大正７）	資料3-79	第一回東京府史蹟講演会記念絵葉書　袋	袋	14×9	1点	
88202802	1936年（昭和11）	資料3-80	地図　大東京（右）	地図	100.5×79	1点	
88202803	1936年（昭和11）	資料3-81	地図　大東京（左）	地図	100.5×79	1点	
89900185		資料3-82	木造太田道灌座像（複製 静勝寺所蔵）	木像	36.5×45.3×59.1	1点	原資料：1695年（元禄８）造立
94347874	1936年（昭和11）	資料3-83	地図　大東京	掛図	120×157	1点	陳列館旧蔵
	1918年（大正７）	資料3-84	静勝寺太田道灌木像（『武蔵野』第一巻第二号口絵）	雑誌		1点	
11000554	昭和前期	資料3-85-1	亀ヶ池跡を隔てて稲付城址静勝寺を望む	絵葉書	9×14	1点	静勝寺　太田道灌公参拝記念絵葉書
11000555	昭和前期	資料3-85-2	静勝寺道灌堂と弁天堂	絵葉書	9×14	1点	同上
11000557	昭和前期	資料3-85-3	静勝寺太田道灌公木像	絵葉書	14×9	1点	同上
11000556	昭和前期	資料3-85-4	静勝寺古文書と道灌公追善奉納品	絵葉書	9×14	1点	同上
11000558	昭和前期	資料3-85-5	静勝寺　太田道灌公参拝記念絵葉書袋		14.2×9.2	1点	同上
		パネル3-4	国指定　名勝　小金井（サクラ）	パネル	42×29.5	1点	後期写真パネル
94360561	［昭和初期］	資料3-80	国指定　名勝　小金井（サクラ）写真	写真	42×27	1点	陳列館旧蔵
		解説パネル3-27	帝都大震災から復興へ（一）壊滅	パネル	42×29.5	1点	
		解説パネル3-28	帝都大震災から復興へ（二）復興	パネル	42×29.5	1点	
		解説パネル3-29	陸地の変遷	パネル	42×29.5	1点	
第４章　市政とその施設　「大東京」を運営していた東京市							
		解説パネル4-1	東京の橋梁（十大橋梁図）	パネル	42×29.5	1点	
		解説パネル4-2	市民の戸籍調べ	パネル	42×29.5	1点	
		解説パネル4-3	市の社会事業	パネル	42×29.5	1点	
		解説パネル4-4	東京の河川港湾	パネル	39×29.5	1点	
		解説パネル4-5	東京の橋梁	パネル	42×29.5	1点	
		解説パネル4-6	東京の道路	パネル	42×29.5	1点	
88107213	昭和前期	資料4-1-1	東京市養育院麻裏草履工場同状袋工場	絵葉書	9×14	1点	東京市養育院絵葉書
88107257	昭和前期	資料4-1-2	東京市養育院説教室ニ於テ里児体重検査ノ図	絵葉書	9×14	1点	同上
93650267	1935年（昭和10）	資料4-2	東京港平面図	絵葉書	9×14	1点	
88138033	昭和前期	資料4-3	聖橋絵葉書	絵葉書	9×14	1点	

資料番号	年代	平面図番号	資料名・タイトル	分類	サイズ	数量	備考
88138027	昭和前期	資料4-4	清洲橋絵葉書	絵葉書	9×14	1点	
88138015	昭和前期	資料4-5	永代橋絵葉書	絵葉書	9×14	1点	
88138755	昭和前期	資料4-6	内幸町通り絵葉書	絵葉書	9×14	1点	
88138038	昭和前期	資料4-7	行幸道路絵葉書	絵葉書	9×14	1点	
88138757	昭和前期	資料4-8	新宿大通り絵葉書	絵葉書	14×9	1点	
88138756	昭和前期	資料4-9	霞が関通り絵葉書	絵葉書	9×14	1点	
		解説パネル4-7	東京市の街路樹	パネル	8×21	1点	
	昭和前期	資料4-10	本市街路樹の種類	紙		1点	陳列館職員作成
	昭和前期	資料4-11	東京市の街路樹	冊子		1点	陳列館旧蔵
		パネル4-1	大東京の市域	パネル	94×59	1点	
		パネル4-2	東京市役所局課組織	パネル	59×94	1点	
		解説パネル4-8	歴代の東京市長	パネル	38.5×25.5	1点	
		解説パネル4-9	東京市の上水道	パネル	42×29.5	1点	
88133993	昭和前期	資料4-12	東京水道絵葉書	絵葉書	14×36	1点	
		解説パネル4-10	東京市の公園	パネル	42×29.5	1点	
	昭和前期	資料4-13	公園に於ける児童指導（日比谷児童遊園）	写真		1点	陳列館職員作成
	昭和前期	資料4-14	文豪を偲ぶ蘆花恒春園	写真		1点	陳列館職員作成
		解説パネル4-11	東京市の衛生事業	パネル	42×29.5	1点	
		解説パネル4-12	東京市の下水道	パネル	42×29.5	1点	
88130123	昭和前期	資料4-15-1	東京市下水課三河島汚水処分場撒水濾過床	絵葉書	9×14	1点	東京市改良下水絵葉書
88130124	昭和前期	資料4-15-2	東京市下水課浅草喞筒室	絵葉書	9×14	1点	同上
88130125	昭和前期	資料4-15-3	東京地下水課馬蹄形下水管内部	絵葉書	9×14	1点	同上
		解説パネル4-13	東京市の清掃事業	パネル	42×29.5	1点	
		資料4-16	塵芥処理系統図パネル写真	写真		1点	［陳列館職員作成］
99000033	昭和前期	資料4-17	東京市屎尿汲取人夫証票	金属製	4×2.5	1点	
99000034-5	昭和前期	資料4-18	東京市神田区屎尿汲取券 半樽券	券	4.8×8.5	2点	
86000018	［昭和中期］	資料4-19	屎尿汲取　汲み取り杓	木製	160×19×18	1点	
86000020	［昭和中期］	資料4-20	屎尿汲取　汲み取り桶運搬用天秤棒	木製	151.1×7×3.5	1点	
86000013、16	［昭和中期］	資料4-21	屎尿汲取　汲み取り桶	木製	38.5×57	2点	
		解説パネル4-14	現代の遊覧地	パネル	5.5×21	1点	
93008699	1933年（昭和８）	資料4-22	東京中心日帰り一二泊遊覧大鳥瞰図	地図	55×74.2	1点	
第５章　産業　消費都市から生産都市へ							
		解説パネル5-1	東京の工業	パネル	29×21	1点	
		解説パネル5-2	東京の農業	パネル	29×21	1点	
		パネル5-1	六大都市生産表・東京市総生産額表	パネル	29×21	1点	
		解説パネル5-3	中央卸売市場	パネル	42×29.5	1点	
00002975	1935年（昭和10）	資料5-1	東京中央卸売市場　築地本場　建築図集	図書	26.2	1点	
88130144	昭和前期	資料5-2-1	東京市神田青果市場鳥瞰図	絵葉書	9×14	1点	東京市神田青果市場絵葉書
88130146	昭和前期	資料5-2-2	東京市神田青果市場店舗内部	絵葉書	9×14	1点	同上
88130145	昭和前期	資料5-2-3	東京市神田青果市場中央部	絵葉書	9×14	1点	同上
88130143	昭和前期	資料5-2-4	東京市神田青果市場店舗内部	絵葉書	9×14	1点	同上
88130148	昭和前期	資料5-2-5	東京市神田青果市場本館 東京市長、助役	絵葉書	9×14	1点	同上
88130147	昭和前期	資料5-2-6	東京市神田青果市場南側入口 頭取、副頭取	絵葉書	9×14	1点	同上
		解説パネル5-4	東京の水産業	パネル	29×20.5	1点	
		解説パネル5-5	浅草海苔	パネル	29.5×42	1点	
		パネル5-2	大森海岸に於ける乾海苔の製造	パネル	29.5×42	1点	
90204231	1902年（明治35）	資料5-3	日本製品図説　浅草海苔	版本	24.5×18	1点	
		解説パネル5-6	東京の地域	パネル	39×27	1点	
94341484	［昭和中期］	資料5-4	海苔下駄	木	23.8×12.6×39.2	1足	
94341385	［昭和中期］	資料5-5	振り棒	木	215	1点	
ギャラリー展示							
第1期（平成27年7月28日～同年10月25日）　東京市の郷土玩具　江戸名所の土産物							
		解説パネルe1-1	東京市の郷土玩具	パネル	42×29.5	1点	
89201934	1891年（明治24）	資料e1-1	王子稲荷 暫狐と鬼子母神 すすきみみずく『うなゐの友初編』	版本	25.3×17.5	1点	
		パネルe1-1	鬼子母神　すすきみみずく	パネル	27×21	1点	
		パネルe1-2	『江戸名所図会』７巻	パネル	29.5×32	1点	
94340736		資料e1-2	雑司が谷鬼子母神　すすきみみずく			1点	
94340640		資料e1-3	王子稲荷　暫狐	玩具		1点	
94340641		資料e1-4	王子稲荷　暫狐	玩具		1点	
94340608		資料e1-5	王子神社　槍	玩具		1点	
94340559		資料e1-6	王子稲荷　磁器製神狐	奉納品		1点	
94340560		資料e1-7	王子稲荷　狐	奉納品		1点	
94340607		資料e1-8	犬張子	玩具		1点	
94340682		資料e1-9	犬張子	玩具		1点	
		パネルe1-3	新版おもちゃ十二支	パネル	42×29.5	1点	14053462「新版おもちゃ十二支」写真
94340610		資料e1-10	芝大神宮　千木筥	玩具		1点	
94340555		資料e1-11	亀戸天神　鶯	奉納品		1点	
94340556		資料e1-12	亀戸天神　鶯	奉納品		1点	

資料番号	年代	平面図番号	資料名・タイトル	分類	サイズ	数量	備考
94340557		資料e1-13	亀戸天神　鶯	奉納品		1点	
94342259		資料e1-14	亀戸天神　卯杖	奉納品		1点	
94340553		資料e1-15	亀戸天神　卯槌	奉納品		1点	
94340554		資料e1-16	亀戸天神　卯槌	奉納品		1点	
94340561		資料e1-17	麻布長谷寺　夜叉神堂　鬼面	奉納品		1点	
94340657		資料e1-18	柴又帝釈天　弾き猿	玩具		1点	
94340552		資料e1-19	柴又帝釈天　三猿	玩具		1点	
89201840	1917年（大正6）	資料e1-20	大阪地方産姉様　『うなゐの友　七編』	版本	25.3×17.5	1点	
94340565		資料e1-21-1	江戸姉様	人形		1点	
94340682		資料e1-21-2	江戸姉様	人形		1点	
		パネルe1-4	日本郷土玩具大番付	パネル	42×29.5	1点	14053556「日本郷土玩具大番付」写真
		パネルe1-5	江戸っ子玩具番付	パネル	42×29.5	1点	14053557「江戸っ子玩具番付」写真
		パネルe1-6	東日本郷土玩具番付	パネル	42×29.5	1点	14053558「東日本郷土玩具番付」写真
		パネルe1-7	江戸時代の縁日おもちゃ屋	パネル	29.5×42	1点	14053463「江戸時代の縁日おもちゃ屋」写真
94340568		資料e1-22	豪徳寺　招き猫	人形		1点	
94340547		資料e1-23	今戸土人形「招き猫（丸〆猫）」	人形		1点	
94340569		資料e1-24	招き猫（〆猫）	人形		1点	
94340544		資料e1-25	今戸土人形「大黒」	人形		1点	
94340543		資料e1-26	今戸土人形「天神」	人形		1点	
94340545		資料e1-27	今戸土人形「獅子頭」	人形		1点	
94340546		資料e1-28	今戸土人形「獅子頭」	人形		1点	
		資料e1-29	今戸土人形「鉄砲狐」	人形		2点	
		資料e1-30	今戸土人形「羽織狐」	人形		1点	
94342250		資料e1-31	今戸土人形「拳狐」	人形		1点	
94342247		資料e1-32	今戸土人形「親子狐」	人形		1点	
94342249		資料e1-33	今戸土人形「三宝狐」	人形		2点	
99342248		資料e1-34	今戸土人形「馬乗り図」	人形		1点	
第2期（平成27年10月27日～平成28年2月21日）　照明の変遷　原始・古代から現代までの明かりの変遷							
		解説パネルe2-1	照明の変遷	パネル	34×30	1点	
		パネルe2-1	「灯火史年表」	パネル	30×21	1点	
		資料e2-1	灯火史年表 特別展『江戸のあかり』図録	図書		1点	
		パネルe2-2	縄文時代中期の住居模型	パネル	41×29.5	1点	
		パネルe2-3	発火具	パネル	42×30	1点	
		資料e2-2	煤が付着した皿型土器	土器		1点	
		パネルe2-4	日本で用いられた発火法	パネル	40×30	1点	
94340003		資料e2-3	火鑽器	木		1点	20.6×3.8
94342115		資料e2-4	火打箱	木		1点	
		パネルe2-5	灯油を用いる灯火具	パネル	40×30	1点	
		パネルe2-6	行灯の灯芯を調節する女性	パネル	38×24.5	1点	
94343185		資料e2-5	油徳利	陶器		1点	21×8
		資料e2-6	ひょうそく	陶器		1点	
		資料e2-7	灯芯	陶器		1点	
		資料e2-8	燈明皿	陶器		1点	
94342012		資料e2-9	有明行灯（枕行灯）	木		1点	24.3×24.2×34.5
94341970		資料e2-10	角行灯	木		1点	
		パネルe2-7	蝋燭（漆や櫨の実からとった蝋を原料とする和蝋燭）を用いる灯火具	パネル	38×29.5	1点	
94341599、94343169		資料e2-11	燭台（鍵屋）	金属		2点	
94343174		資料e2-12	手燭	金属		1点	
		資料e2-13	燭台	金属		1点	
		資料e2-14	燭台	金属		1点	
		パネルe2-8	弓張提灯を手にふんどし姿で歩く二人連れ	パネル	40×27.5	1点	
		資料e2-15	弓張提灯	木		2点	
		資料e2-16	ぶら提灯	木		1点	
		資料e2-17	蔵提灯	金属		1点	
94342919		資料e2-18	がんどう	金属		1点	21×21×28.5
		資料e2-19	燈明台	金属		1点	
		パネルe2-9	石油ランプ	パネル	38.7×30	1点	
		資料e2-20	吊ランプ	金属		1点	
		資料e2-21	台ランプ	金属		2点	
		資料e2-22	座敷ランプ	金属		2点	
		パネルe2-10	ガス灯	パネル	39×29.5	1点	
		パネルe2-11	東京市（十五区）ガス灯利用戸数の変遷	パネル	37×29.5	1点	
94341597		資料e2-23	室内ガス灯（鍵屋）	金属		1点	
94341598		資料e2-24	室内ガス灯（鍵屋）	金属		1点	33.5×12
		パネルe2-12	電灯	パネル	39.5×29.5	1点	
		パネルe2-13	東京市（十五区）電灯利用戸数の変遷	パネル	39.5×29.5	1点	
		資料e2-25	電灯笠	ガラス		1点	

【表２】東京郷土資料陳列館展示項目・内容及び企画展「東京郷土資料陳列館ものがたり」展対応表

解説パネル：○＝当時の項目解説文のみ、◎＝当時の展示解説文＋今回の解説文またはグラフ、写真等のパネル。展示資料リスト及び平面図に対応。

旧陳列館収蔵資料「展示分」：陳列館時代の収蔵品または当時職員が作成したもの。「非展示分」：今回展示しなかったが項目に対応する陳列館資料。

展示構成 展示区画	大項目（当時） 大項目（今回）	小項目（当時）	項目解説文（当時）	解説パネル	旧陳列館収蔵資料	
					展示分	非展示分
第一章 第一区	東京の輪郭 「大東京」のプロフィール	江戸のいはれ	江戸といふ地名は河口を意味する言葉である。	◎1-1		
		我等の帝都大東京	東京は我國政治、經濟、學術、交通の中心で、今や世界第二の大都會である。	◎1-2		
		國会議事堂	本議事堂は一七ヶ年の歳月と二千六百萬圓の巨費を費やして落成した大建築で豪壮華麗　延坪一萬六千坪。	◎1-3	資料1-5	
		市の紋章	渡邊洪基氏の考案になり、明治二十二年十二月二十日制定されたもので東京市の三字を表はして居る。	◎1-4		
		府の紋章	現在の紋章は昭和六年民間から募集した入選案を基礎として改定されたものである。	◎1-5		
		東京市歌	高田耕甫作　山田耕筰作曲	◎1-6		
		江戸の恩人 太田道灌と徳川家康		◎1-7		
第二章 第二区	自然界の状態 昭和10年頃の東京市の環境	東京市模型圖	東京市内で最も高い地方は板橋區の西部で東京湾の海面上一八〇尺である。最も低い地方は江東方面である。	2-4	94360188?	
		氣象	東京は海に近い為氣温の差は少いが冬季は秩父山系から吹き下す強風に惱まされる。この為郊外民家に屋敷林が發達した。	◎2-1		
		一年間の降雨量	東京の雨量は年一五六六ミリ、季節としては秋が最も多く冬は少い。	◎2-2		
		地質	東京の地盤は第三紀層の岩石で、その上に赤土（火山灰）が堆積して山ノ手台地を形成してゐる。下町は三河川の沖積層と海邊の埋立地である。	◎2-3		
		地形	東京の地形は武蔵野台地の末端を占める山ノ手と三つの河川によつて形成された低地の下町とに分かれる。	◎2-5		
		動物の 過去現在棲息地	大東京の地にも過去に於いてアナグマ等が棲息し、現在でもキツネ、リス等が見受けられる。			
		鳥類の繁殖地と 渡り鳥	野鳥の繁殖地には明治神宮内苑其他があり、渡り鳥には旅鳥、夏鳥、冬鳥等がある。	◎2-11	資料2-13	
		多摩川と 隅田川の魚類	東京の下町の狹い河川には殆ど魚類の跡を絶つたが、大河と近郊の河川には魚類は豊富であつて多摩川にはフナ、アユ、ウナギ等が多く隅田川にはコヒの類が多い。	◎2-8		
		あまのり（標本）	浅草海苔は植物學上あまのりと呼ばれる紅藻類である。	◎2-9		
		武蔵野の森林	武蔵野の森林は暖帯北部に属するもので文化の發達に伴い次第に林相が變化衰退して来た。			
		武蔵野の雑木林	今日の武蔵野を特徴づける雑木林は中古時代に常緑潤葉樹を焼拂つた跡に生じた二次的なもので都市近郊の木炭林として存在する。			
		市内の老樹名木	目通三米以上の老樹と由緒傳説のある名木が市内に六百本以上存在する。	◎2-6		
		天然紀念物及名勝 （寫眞）				
		麻布目黒方面の昆蟲 （標本）	東京の昆蟲相は平地性の昆虫によつて形成され、それに多少の山地性のものが含まれて居る。			
		氣候の變化を示す 貝化石（標本）	比較的新らしい地質時代に東京が寒冷な氣候に襲はれたことはこの化石により知られる。	◎2-7	資料2-1～8	
		台地と低地の 地質比較（標本）	台地（麻布區）と低地（麹町區日比谷）との地層の差違を標本により比較。			
		野鳥の巣（標本）	市内の少し廣い林地には野鳥の巣を見ることが出来る。其の一例として有栖川宮記念公園に見受けられる野鳥相の一部である。			
		ムラサキ（標本）	ムラサキは古来武蔵野の特産植物とされて居る。根から紫色の染料を取つたので其の名がある。	◎2-10		
		東京から見える山々	東京から見える山の中、千米以上のものは二百に近く世界都市中其の比を見ない。本圖は神宮外苑から望んだものである。何時でも見えるものではなく空氣の透徹する冬期の晴れた朝には此の神秘的景觀を窺ふことが出来る。	◎2-12		
第三章 第三区 第四区 第五区	文化の発達 考古資料・歴史資料でたどる東京市のあゆみ	石器時代の東京	有史以前の東京の高臺には石の利器を使用した民族が住んで居た。發掘された器物により當時の状態を示す。	◎3-3		
		貝塚	石器時代に臺地の間に谷が奥深く入つて海に續いてゐたので、住民は最も採集に容易な貝類を常食してゐた。その殻の棄積を貝塚と稱え其内には動物の骨器物の廢殘品などを混へて居るので考古學上貴重なものである。	◎3-1		
		石器時代の器具 （標本）	當時の器具の中斧と鍬を示す。一概に石斧といはれるものの中にはこのやうに土掘りに用ひられたものもある。			
		石器時代の遺物	當時の土器（縄紋土器・彌生式土器）、石器、石斧、石小刀、石皿、敲石、錘石、貝輪、骨鋲等	◎3-2	資料3-1～18	
		上代の東京	奈良朝以前の壮大な墳墓が今尚殘つて居る。斯かるものは形式其他から高貴の人々の墳墓と認められて居る。			
		大森の横穴（模型）	上代墳墓の一形式として丘陵の斜面に彫られた横穴遺跡の一例として大森區久ケ原發見のものを示す。			
		埴輪	上代墳墓の周圍に樹てられた埴輪から當時の風俗を知ることが出来る。芝公園出土其他。	◎3-4	資料3-21～27	

展示構成 展示区画	大項目（当時） 大項目（今回）	小項目（当時）	項目解説文（当時）	解説 パネル	旧陳列館収蔵資料	
					展示分	非展示分
第三章 第三区 第四区 第五区	文化の発達 考古資料・ 歴史資料で たどる 東京市の あゆみ	原始時代の遺物	古墳及び横穴から發掘した武器、土器、装飾品。	◎3-5	資料3-19、20 資料3-28～33	
		原始時代遺跡分布圖	市内に於ける石器時代から上代の遺跡分布状態。	◎3-8		
		武蔵野の開拓と 韓民族	晝なほ暗い大森林の武蔵野は約千三百年前、歸化韓民族の火田の法によつて開拓されたのである。			
		武蔵國分寺	奈良朝時代國毎に設けられた國分寺は武蔵に於ては北多摩郡國分寺に建てられ、現在礎石が殘って居る。	○3-6		
		國分寺瓦の色々	これ等の瓦には高麗文化の手法が窺はれ、奉献した當時の郡名が刻されて居るものもある。	○3-7	資料3-34～38	
		板碑	板碑は鎌倉、吉野朝時代を中心として用ひられた關東に多い板石の供養塔婆である。			板碑
		東京灣の海戰	永正―天正年間に小田原北條氏と里見氏の間に數度東京灣で海戰が行はれた。	○3-9		
		江戸城	江戸城は室町時代太田道灌によつて築かれ、上杉、北條氏を經て徳川氏の手に移り完成せられたものである。			
		江戸城築城用材は 何處から求めたか	石垣の石材（伊豆）建築用木材（信濃）白壁用石灰（武蔵）			
		江戸城古地圖	甲良家に傳はるもの及び天保年間の城地地圖。			
		明治初年の江戸城	明治初年の本丸附近の状況を示す。			
		四谷見附と 常盤橋門趾	江戸城の要害の一例としての城門を示す。常盤橋門は外部の正面、四谷見附は外部の正面、四谷見附は西方の要害である。			常盤橋門 址写真
		高輪大木戸	江戸には一里毎に木戸を設けたが、高輪のそれは江戸の入口であつたから最も大規模であつた。			高輪大木 戸写真
		江戸と參觀交代	徳川氏の國内諸大名統御の策として一定期間江戸に參觀せしめる制度を執つたが為、各大名は年々大行列をして江戸へ往復したので江戸は天下第一の消費都市となり、當時のロンドンやパリーにも劣らぬ繁榮ぶりであった。	◎3-12	資料3-48	
		大名屋敷瓦	松平土佐守屋敷趾發掘の際出土せるもの。	◎3-14	資料3-51	
		五街道	江戸が天下の大都會となると共に我國の幹線道路として五街道が設けられた。	◎3-11		
		常盤橋擬寶珠	江戸時代橋梁の装飾。常盤橋門外の橋の遺品。明暦四年の銘を有する。			常盤橋 擬寶珠
		一里塚	徳川氏は交通目標の為め、街道上一里毎に塚を築き樹を植ゑた。現在この塚は瀧野川、志村等に殘つて居る。			
		玉川上水配水樋	神田上水に引續き承應年間（今から二百九十年前）敷設せられた玉川上水は斯る木樋で配水した。			上水木樋
		江戸の消防組織	江戸の消防組織は大名火消、定火消、町火消に依って構成されて居つた。	○3-16	資料3-52 室内写真で確認	
		江戸十大火災圖	江戸は最も大火の多かった都市で其の代表的な大火災を地圖上に示し、その季節焼失範圍を説明。	◎3-17	資料3-53	
		火事の瓦版	瓦版は今日の新聞號外ともいうべきものである。	○3-19		
		江戸時代の時報	江戸時代には時間と鐘と拍子木によつて毎時知らせた。當時の鐘の一は日本橋十思公園に保存されて居る。			
		江戸時代米穀輸送路	江戸人の食料米は主として奥州から送られたが、それには河村瑞軒の功績を見逃すことはできない。	◎3-15		
		松平定信の書	天明七年老中松平定信はこの願文を本所吉祥院に奉つて悪政改革の決心を示されたのである。	○3-13		
		江戸人の行樂地	當時の行樂範圍は江戸砂子、江戸名所圖會等により知ることが出来る。			
		伊能忠敬實測江戸圖	文化十四年完成した縮尺六千分の一の精巧な實測圖である。（天井）			
		東都近郊圖	文化八年版。當時の東京附近の状況を知ることが出来る。			
		江戸時代の遺物	江戸の民衆の生活を物語る焼塩壺、燈明皿、泥めんこ等。	○3-10	資料3-40～47	焼塩壺
		名園	大名屋敷の庭園は江戸の庭園を代表するもので廻遊式のものが多く、実写的であること、下町では汐入の池を設けたことは特徴とされて居る。	○3-25		
		東京灣の國防史蹟品 川臺場	臺場は米艦の来航を機として築かれたもので、多難であつた當時を物語る國防史蹟である。	○3-19		
		江戸城明渡談判	明治元年官軍は江戸に迫り正に總攻撃をしようとしたが、勝安房守と西郷隆盛との談判により平和の裡に明渡された。	○3-23		
		勝海舟の書	明治二十五年勝海舟が江戸城明渡し當時を回想して認めた漢詩である。	○3-24		
		上野戰争と彰義隊	明治元年徳川慶喜の恭順を喜ばぬ同志は彰義隊を組織して上野に立籠り遂に官軍と一線を交へた。	○3-20		
		當時の砲彈	上野公園から發掘されたもので、湯島から打出した官軍側のものと推定される。		資料3-58	
		戰争後の上野	竹の臺附近の寫眞で壮麗を誇った中堂大建築の焼跡である。	○3-21		
		東京奠都	維新の大業がなり明治元年七月江戸は東京と改められ我國の帝都となり車駕東行を迎へ奉つた。	○3-22		
		明治天皇御聖蹟	明治元年御東行の際御小休憩所となつた蒲田梅屋敷及び豊島の木戸舊邸。			蒲田梅屋敷 写真
		帝都大震災から 復興へ	（一）壞滅　大正十二年九月一日の大震災により東京は市域の四割以上を焼失し損害は實に三十六億圓に上った。 （二）復興、壞滅した帝都は八ヶ年の歳月と七億の巨費を費やし面目を一新するに至つた。	◎3-27 ◎3-28		

展示構成 展示区画	大項目（当時） 大項目（今回）	小項目（当時）	項目解説文（当時）	解説 パネル	旧陳列館収蔵資料	
					展示分	非展示分
第三章 第三区 第四区 第五区	文化の発達 考古資料・ 歴史資料で たどる 東京市の あゆみ	陸地の變遷	長禄、天正、寛永、文久、天保、現代と時代順に古地圖によつて東京の地形の復原を試みた。	◎3-29		
		地域變遷圖	江戸から大東京になるまでの三百五十年間の變遷を天正以降八圖に依り示す。			
		人口増加圖	三百五十年前の人口僅かに五百に過ぎなかった當時より世界第二位となるまでを圖示。			
		照明の變遷	燈火の變遷を使途上より屋内、屋外、携帯燈に分ち時代毎に代表型式を示す。	◎ e2-1		
第四章 第六区 第七区	市政と その施設 「大東京」を 運営していた 東京市	大東京の區政	本市三十五區は單なる行政區劃ではなく財産、營造物を管理し、區會を有する法人區である。			
		歴代の東京市長	明治三十一年松田秀雄氏が就任したのを初めとし現市長は十八代目である。	◎4-8		
		市民の戸籍調べ	本市居住者の出生地は東京が四一、他府縣が五三といふ割合になつて居る。	◎4-2		
		市の社會事業	社會事業の重点は貧困者の為の方面事業に置かれ、其他養育院、宿泊所、食堂等を経営して居る。	◎4-3		
		東京の新聞	市政には関係ないが、都心に集る各種新聞は東京の文化を導く重要なものであらう。			【図１-13･14】
		史蹟名勝天然紀念物	原始以来江戸東京を経て現代に至る史蹟を始め名勝天然紀念物の保存されるものが多い。	◎3-26	資料3-74、75、83、86	
		東京の河川港灣	東京の繁栄は隅田河口の東京港と市内を縦横に貫通する河川運河による所が少くない。	◎4-4		
		東京の橋梁	震災による木橋の焼失後獨創的な技術による復興橋梁により一新した面目を示して居る。	◎4-1、5		
		東京の道路	都市計画事業として道路の根本的改正が行はれ新らしい街路系統が実現した。	◎4-6		
		東京市の街路樹	市民の健康と市の美観の為め本市は震災後街路樹の充実に力を致し、現在九万五千本に及ぶ。	○4-7	資料4-10、11	
		東京市の上水道	徳川氏以来の歴史があるがその後大擴張され、多摩川、江戸川の二水系により供給されて居る。	◎4-9		
		東京市の下水道	下水計画は雨水汚水を同じ管渠に集める合流法により汚水處分場でこれを浄化して居る。	◎4-12		
		東京市の公園	明治六年創設以来現在百七十ヶ所に開設され、各々保健、保安、休養、慰安、教化の施設を持って居る。	◎4-10	資料4-13、14	
		東京市の清掃事業	一ヶ月で丸ビル大の山となる塵芥は焼却其他により又屎尿は肥料のほか浄化處理等を行ふ。	◎4-13	資料4-16	
		東京市の衛生事業	中産以下の人々を目的とする醫療施設及び傳染病豫防、結核對策を中心に事業を行つて居る。	◎4-11		
		東京市の葬務施設	旧来の共葬墓地の他多磨、八柱の二大霊園があり、別に葬儀所、火葬場、納骨堂等を施設して居る。			多磨霊園 納骨堂写真
		東京市の名園	本市の管理する後樂園、六義園等を始め江戸時代以来の庭園が残つて居り下町のものは汐入の池が特長となつて居る。			
		現代の遊覧地		◎4-14		多摩川園 写真
第七区		今月の行事	東京の月々の行事に就き江戸の當時と現在を比較對照して示す。			凧揚げ版画 及び写真
第五章 第八区	産業 消費都市から 生産都市へ	東京の地域	都市の發達と共に市民生活の安寧秩序の為法律で居住、商業、工業別の用途地域を定めて居るがこれは又東京市に於ける産業立地を端的に示すものであらう。	◎5-6		
		中央卸賣市場	市民の日常必需品たる生鮮食料品の総合的統制市場で取扱高年額一億二千数百萬円に上る。	◎5-3		
		東京の工業	東京は今や日本第一の生産都市で年額十八億円その九七％が工産物である。	◎5-1		
		東京の農業	農耕地は現在市域の三分の一を占め主として蔬菜を生産し花卉も亦重要産業となつて居る。	◎5-2		
		東京の水産業	海苔を始め沿岸、河川、漁業に特長を示すもので近年は汚毒水流入の為その對策を講じて居る。	◎5-4		
		淺草海苔	古くは隅田川で自生品を採取したが次第に遷つて現在は羽田沖で養殖して居る。	◎5-5		
		東京附近の現況 （天井）	土地の利用状況を地圖に塗り分けたもので東京附近人文の發達状況を知ることが出来る。		室内写真で確認	
エピローグ 模型	東京市の 郷土玩具		江戸時代には東京の各名所に特色ある玩具があって土産となつて居つた。これは全國各地の玩具の母體となつたとも考へられる。この意味から明治前期までの東京の郷土玩具六十餘種を示す。 江戸の趣味、郷土玩具、江戸趣味豊かな郷土玩具の中十八種の由来を説明。	◎ e1-1		

２　企画展「発掘された日本列島2018」地域展「東京郷土資料陳列館と考古学」実施概要

（１）地域展「東京郷土資料陳列館と考古学」の概要

①開催概要

【会　　期】2018年（平成30）６月28日～７月22日

【会　　場】江戸東京博物館 ５階 企画展示室前（東京都墨田区）

【主　　催】東京都、東京都江戸東京博物館

【協　　力】東京都教育庁

【展示構成】第１部　東京郷土資料陳列館と考古資料

第２部　初代学芸員片倉信光と考古模型標本

②展示内容の紹介

「発掘された日本列島」は平成７年度から文化庁が行う展覧会で、近年発掘調査が行われた中で特に注目された出土品を中心とした展示を構成し、全国を巡回している。各会場は中核となる展示（以下、中核展）の実施協力のほか、各会場が地域展を主催する。江戸博は初期から東京会場の役割を担い、関東地域の埋蔵文化財を紹介するさまざまな地域展を開催してきた。2018年（平成30）は筆者が担当したことから、上記、たてもの園の陳列館展の成果から、陳列館及び旧蔵の考古資料及び考古学模型標本を紹介する内容で地域展を行うことになった。本展示内容の詳細については、以下、第１部、第２部に分けて述べる。

（２）各部構成の詳細

①第１部　東京郷土資料陳列館と考古資料

中核展の会場は５階常設展示室内の企画展示室で、この年の地域展の会場は企画展示室前の空間にケース数台を置き、壁面にパネルや額装した資料を設置する小規模な展示であった【図２－１】。本地域展の展示資料リストは【表３】のとおり。

【図２－１】展示会場全景

【図２－２】第一部　右からケース１－１、１－２、１－３
壁面左は額装地図「大東京」

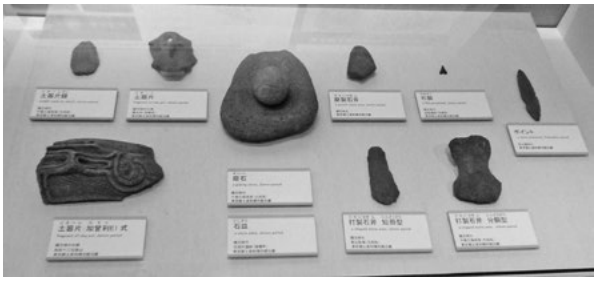
【表３】地域展「東京郷土資料陳列館と考古学」展示資料リスト

資料番号	年代	ケース番号等	資料名・タイトル	分類	著者／発行	サイズ(cm)	数量	備考
		パネル0-0	展覧会タイトル	パネル		180×45	１点	
		パネル0-1	あいさつ（日・英）	パネル		A1タテ	１点	
第１部　東京郷土資料陳列館と考古資料								
		パネル1-1	Ⅰ　東京郷土資料陳列館と考古資料（日・英）	パネル		A1タテ	１点	
		パネル1-2	開園時の有栖川宮記念公園と東京郷土資料陳列館	パネル		A1ヨコ	１点	
		パネル1-3	東京郷土資料陳列館 展示構成	パネル		Ａ２タテ	１点	
		パネル1-4	東京郷土資料陳列館 旧蔵考古資料一覧	パネル		Ａ１ヨコ	１点	
88202802	1936年（昭和11）	額1	地図　大東京　史蹟名勝天然紀念物図示（右）	地図		100.5×79	１点	額装して壁掛け
88202803	1936年（昭和11）	額2	地図　大東京　史蹟名勝天然紀念物図示（左）	地図		100.5×79	１点	額装して壁掛け
99345248	先土器時代	ケース1-1	ポイント	石器		13.7×3.8×1.1	１点	陳列館旧蔵
99345292	縄文時代	ケース1-1	打製石斧　分銅型（千鳥久保貝塚）	石器		13.2×9.4	１点	陳列館旧蔵
99345328	縄文時代	ケース1-1	打製石斧　短冊型（馬込貝塚）	石器		12.7×5.3	１点	陳列館旧蔵
99345384	縄文時代	ケース1-1	磨製石斧	石器		9.3×6.5	１点	陳列館旧蔵
99345279	縄文時代	ケース1-1	石鏃（油面遺跡）	石器		2.1×1.6	１点	陳列館旧蔵
99345390	縄文時代	ケース1-1	石皿（石畑村遺跡）	石器		21.5×19×5.6	１点	陳列館旧蔵
99345389	縄文時代	ケース1-1	磨石（千鳥久保貝塚）	石器		7.3×6.8	１点	陳列館旧蔵
99345251	縄文時代中期	ケース1-1	土器片：加曽利ＥⅠ式（和田十二社後山）	土器		11.4×21	１点	陳列館旧蔵
99345252	縄文時代中期	ケース1-1	土器片（多摩市連光寺）	土器		10.2×10.2	１点	陳列館旧蔵
99345258	縄文時代	ケース1-1	土器片錘（千鳥久保貝塚）	土器		7.6×5.4	１点	陳列館旧蔵
99345392	弥生時代	ケース1-2	壺型土器（飛鳥山公園内遺跡）	土器		10×24.5	１点	陳列館旧蔵
99345399	古墳時代	ケース1-2	円筒埴輪（芝公園第一号古墳）	土器		19.6×13.6	１点	陳列館旧蔵
99345406	奈良時代	ケース1-2	軒丸瓦（武蔵国分寺跡出土）	瓦		18.2×17.8×9.5	１点	陳列館旧蔵
99345408	奈良時代	ケース1-2	国分寺文字入り瓦「荏」（荏原郡）（武蔵国分寺跡出土）	瓦		12.4×12.8	１点	陳列館旧蔵
99345476	江戸時代	ケース1-3	灰釉徳利	陶器		23.1×10.9	１点	陳列館旧蔵
99345479	江戸時代	ケース1-3	焼締徳利	陶器		21.9×10.2	１点	陳列館旧蔵
99345472	江戸時代	ケース1-3	泥めんこ　き組纏	土器		2.4	１点	陳列館旧蔵
99348154	江戸時代	ケース1-3	泥めんこ　百組纏	土器		2.6	１点	陳列館旧蔵
99345474	江戸時代	ケース1-3	泥めんこ　四文銭	土器		2.4	１点	陳列館旧蔵
99345469	江戸時代	ケース1-3	泥めんこ　芥子面 ひょっとこ	土器		3.4×2.8	１点	陳列館旧蔵
99348146	江戸時代	ケース1-3	泥めんこ　芥子面 おかめ	土器		3.8×1.4	１点	陳列館旧蔵
99345467	江戸時代	ケース1-3	泥めんこ　芥子面 獅子頭	土器		1.9×2.3	１点	陳列館旧蔵
99345471	江戸時代	ケース1-3	泥めんこ　三升紋	土器		2.3	１点	陳列館旧蔵
99348143	江戸時代	ケース1-3	泥めんこ　左三つ巴	土器		3.3	１点	陳列館旧蔵
99345444	江戸時代	ケース1-3	泥めんこ　丸に三つ引き	土器		3.4	１点	陳列館旧蔵
99345477	江戸時代	ケース1-3	鉄釉灯明皿	陶器		8.4×1.4	１点	陳列館旧蔵
99345481	江戸時代	ケース1-3	煙管雁首	陶器		5.8	１点	陳列館旧蔵
99345480	江戸時代	ケース1-3	焼締摺鉢片（港区麻布広尾町※現南麻布出土）	陶器		11.6×13.8×5.4	１点	陳列館旧蔵
99345448	江戸時代	ケース1-3	焼塩壷（小石川旧東京砲兵工廠構内出土）	土器		11.1×8.5	１点	陳列館旧蔵
99345450	江戸時代	ケース1-3	焼塩壷　蓋付	土器		10.8×9.2	１点	陳列館旧蔵
99345456	江戸時代	ケース1-3	土佐柏文軒丸瓦（旧土佐藩邸※東京府・市庁舎構内出土）	瓦		11.1×4.4	１点	陳列館旧蔵
第２章　初代学芸員片倉信光と考古学模型標本								
		パネル2-1	Ⅱ　初代学芸員片倉信光と考古学模型標本（日・英）	パネル		Ａ１タテ	１点	
		パネル2-2	鳥居龍蔵一行による東京市内の古墳調査（1916）	パネル		Ａ１タテ	１点	
		パネル2-3	初代学芸員片倉信光の活動	パネル		A2タテ	１点	
		パネル2-4	教育現場における考古学模型標本	パネル		A1ヨコ	１点	
99345492	縄文時代	ケース2-1	貝輪（複製）			10.7×8.2	１点	陳列館旧蔵
	1904年（明治37）	ケース2-1	『先史考古図譜』	図書	大野延太郎／著 嵩山房／発行	A4	１点	平田健氏所蔵
99345491	縄文時代	ケース2-1	遮光器型土偶（複製）	土器		13.7×9.6×3.8	１点	陳列館旧蔵
99345502	古墳時代	ケース2-1	須恵器　長頸壺（複製）	土器		17.4×24.5	１点	陳列館旧蔵
99345503	古墳時代	ケース2-1	須恵器はそう（複製）	土器		9.9×12.5	１点	陳列館旧蔵
99345500	古墳時代	ケース2-1	須恵器碗（複製）	土器		10×7	１点	陳列館旧蔵
99345501	古墳時代	ケース2-1	須恵器偏壺（複製）	土器		12.8×14.5×7.8	１点	陳列館旧蔵
99345498	古墳時代	ケース2-1	須恵器杯（複製）	土器		12×3.8	１点	陳列館旧蔵
99345499	古墳時代	ケース2-1	須恵器杯（複製）	土器		11.5×3.3	１点	陳列館旧蔵
99345496	古墳時代	ケース2-2	武人埴輪（複製）群馬県新田郡世良田出土	土器		13.1×16.4×45.5	１点	陳列館旧蔵
	古墳時代	ケース2-2	人物埴輪（複製）栃木県宇都宮市綾女塚古墳出土	土器		13.5×14.5×28.8	１点	陳列館旧蔵
99345495	古墳時代	ケース2-2	人物埴輪（複製）神奈川県鎌倉市采女塚古墳出土	土器		28.4×18.3×11.1	１点	陳列館旧蔵
99345494	古墳時代	ケース2-2	円筒埴輪（複製）	土器		18.6×9.8	１点	陳列館旧蔵
	1933年（昭和８）	ケース2-2	『國史を彩る我等の郷土 東京府』	図書	土上新作／著 博美社／発行	A5	１点	平田健氏所蔵

地域展の前半を「第１部　東京郷土資料陳列館と考古資料」として、ケース３台で構成した【図２－２】。壁面には開園時の有栖川宮記念公園及び陳列館の概要をパネルで示し、陳列館旧蔵の資料の概要とそのなかの考古資料の概要をパネルにまとめ、本パネル左上の円グラフで陳列館旧蔵資料の構成比を示した【図２－３】。陳列館旧蔵資料の49％が大判紙焼き写真、32％が考古資料、その他が19％という構成で、そのうち考古資料は、縄文遺跡関係資料（土器片、石斧、石鏃など）が151点で全体の54.5％を占める。その次に多いのは近世遺跡関係資料（泥めんこ、焼塩壺、灰釉徳利、軒丸瓦など）が55点、19.8％、その他、古墳時代の埴輪片、奈良時代の国分寺瓦、中世の板碑などがある。

右端のケース１－１には、陳列館の常設展示の小項目「石器時代の遺物」に対応する陳列館旧蔵資料のう

【図２－３】パネル１－４



【図２－４】ケース１－１

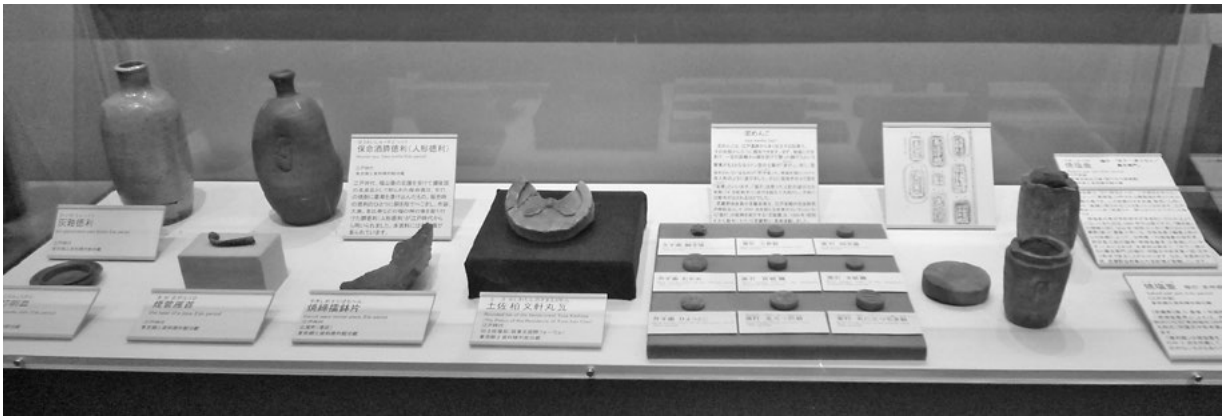
【図２－５】ケース１－２

ち、先史時代のポイント、縄文時代の打製石斧、磨製石斧、石鏃、石皿と磨石、土器片、土器片錘を展示した【図２－４】。同種のものがある場合は資料に出土地の注記があるものを選んだ。次のケース１－２には、小項目「原始時代の遺物」、「埴輪」、「国分寺瓦の色々」に対応する陳列館旧蔵資料のうち、弥生時代の壺形土器、円筒埴輪片、国分寺瓦を展示した【図２－５】。また、円筒埴輪片裏面の注記を解説板【図２－６】で展示した。注記によれば、円筒埴輪片は1938年（昭和13）に芝公園第三号古墳で出土した資料。初代学芸員の片倉信光はこの年、故郷の白石に戻り、斎藤報恩会博物館（仙台市）の学芸員となった。国分寺瓦は軒丸瓦と文字瓦を各１点展示し、他の文字瓦を解説板【図２－７】で示した。このケースの背後の壁に、額装した左右二分割の地図「大東京 史蹟名勝天然紀念物」を展示した。先に述べた通り、1936年（昭和11）時点の史蹟名勝天然紀念物の分布状況がわかる地図で、指さしながら話をされている方々も時折見かけた。

【図２－６】埴輪片解説板

【図２－７】国分寺瓦解説板

３番目のケース１－３には、小項目「大名屋敷瓦」、「江戸時代の遺物」に対応する陳列館旧蔵資料のうち、松平土佐守跡から出土した松平土佐守の家紋が入った軒丸瓦[15]、東京市内出土の焼塩壺、泥めんこ、徳利、擂鉢片、キセル雁首等を展示した【図２－８】。1916年（大正５）、東京市公園課の井下清が東京大



【図２－８】ケース１－３

学人類学教室鳥居龍造と意気投合して武蔵野会を結成、1918年（大正７）から機関誌『武蔵野』も発行し、武蔵野地域を中心に活発に見学会・研究会を行った。江戸遺跡から多く発掘される焼塩壺の考古学的研究が本格化するのは1980年代以降だが、1934年（昭和９）３月発行の『武蔵野』には、当時唯一の研究者、前田長三郎が論考「堺焼塩壺考」を寄稿していた。また、武蔵野会会員の首藤岩泉は、江戸後期の社会研究の傍証品として泥めんこを収集し、面打ちの絵柄を紹介する「泥面譜」を、1929年（昭和４）から数年にわたって、『武蔵野』に連載した。こうした内容を含むキャプションを合わせて展示した。

②第２部　初代学芸員片倉信光と考古模型標本

地域展の実施にあたり、東京都教育庁の学芸員平田健氏にご相談して、東京都教育庁に展示制作のご協力をいただくこととなった。考古資料のディスプレイなど全体的にチェックしていただいたが、とくに、地域展の後半である第２部は陳列館旧蔵の考古学模型標本を中心とした資料展示、解説パネル作成

【図２-９】第二部　右からケース２-１、２-２

【図２-10】ケース２-１

【図２-11】ケース２-２

考古学模型標本と東京郷土資料陳列館

考古学模型標本について

考古遺物の模型標本は明治33年(1900)、坪井正五郎(東京帝国大学)の指導により、学校教材として販売されました。大正から昭和初期にかけては、島津製作所標本部や上野製作所標本部が主に製作・販売を行っています。製作にあたっては、岩井武俊(大阪毎日新聞)や濱田耕作(京都帝国大学)ら考古学者が監修しています。この時期、学校では郷土教育が採用され、校内に郷土室が設置されるようになります。考古学模型標本は、こうした郷土室の棚を飾っていました。

ここに展示している模型標本は、島津製作所標本部が製作・販売したものです。学校教材として開発された模型標本を、博物館で展示していた例はあまりありません。東京郷土資料陳列館は、小学児童を対象としていました。そのため、完全な形で出土することが少ない土偶や人物埴輪などの全体像をイメージできるよう、補足的に展示されていたと考えられます。

(平田 健・東京都教育庁)

【図２-12】パネル２－４

片倉信光年譜

1909年(明治42)	北海道、幌別(千歳水産試験場)にて誕生。
1911年(明治44)	片倉家、幌別村より宮城県白石町(現白石市)へ移住。
1920年代後半	白石中学から國學院大學へ進学、考古学を専攻し、上代文化研究会に所属。
1933年(昭和8)	片倉信光の調査報告をきっかけとして、鳥居龍蔵教授が宮城県白石町鷹巣古墳群等を踏査し、同地で「考古学上より見たる刈田郡の上代文化」と題する講演を行う。
1934年(昭和9)	4月　國學院大學を卒業し、東京郷土資料陳列館(以下、「陳列館」)に学芸員として勤務。
	6月　東京府下中等学校地歴教員会の東京市内考古学上見学会の企画・引率。
	11月　「陳列館」、有栖川宮記念公園開園と同時オープン。
1935年(昭和10)	村高幹博、片倉が提供した「片倉代々記」により三代小十郎が普請総奉行を務めたお茶の水堀割工事について執筆。(「神田川掘割の古記録 片倉代々記」『武蔵野叢書第1輯 神田』)。
1938年(昭和13)	白石に戻り、齋藤報恩会博物館(仙台市)勤務。
1940年(昭和15)	友人と奥州白石郷土工芸研究所を創立、所長となり、江戸時代、白石城下の名産品であった紙衣、紙布織の技術復活をめざす。
1941年(昭和16)	父健吉の死去に伴い、旧白石領主片倉家15代を嗣ぎ、男爵を襲爵。 奥州白石産紙布織復興展覧会開催。
1942年(昭和17)	戦時の衣料品逼迫に対処する素材として紙布開発が評価・注目され、久松侍従、石黒農林大臣、渋沢日銀総裁が奥州白石郷土工芸研究所来訪。ドイツ軍人の視察、日本陸軍兵士の染色実習にも対応。／仙台市青葉神社宮司を務める(1965年まで)。
1944年(昭和19)	齋藤報恩会博物館収蔵資料のうち、非展示の地質学、動物学標本を白石城で疎開受け入れ。東京からの集団疎開児童受け入れに協力。『白石の歴史読本』配布。
1946年(昭和21)	齋藤報恩会博物館退職(病気療養)。
1951年(昭和31)	白石市史編纂委員就任(1985年まで)。
1964年(昭和34)	白石市文化財保護委員就任(1977年まで)。
1985年(昭和60)	逝去。

参考文献：片倉信光ほか／著『明治100年白石風物誌』1967年 不忘新聞社、『登別町史』1967年 登別町、相原淳一ほか／編『赤い本：地方民間史学の可能性：片倉信光追悼論文集』1985年 赤い本同人会、『財団法人齋藤報恩会のあゆみ－財団85年・博物館75年－』2009年 財団法人齋藤報恩会、佐々木康剛／編著『宇集峰開下谷洗草の記録』2009年 桜出版

宮城県金倉に在る横穴古墳群　鳥居龍次郎／撮影　「郡山横穴古墳に就て」『武蔵野』第21巻第2号より

著作目録(抜粋)

1931年(昭和6)　「鷹の巣古墳見聞記」(調査報告)『上代文化』第4・5号　上代文化研究会／発行
「東京府下池上町久ヶ原原生式竪穴に就て」(調査報告)『上代文化』第6号
1932年(昭和7)　「磐城国仙台発見の土偶に就て」(資料紹介)『上代文化』第8号
1933年(昭和8)　「下別当出土の隻口人面土器」(資料紹介)『上代文化』第9号
「下別当出土の隻口人面土器」(資料紹介)『考古学』第4巻第4号　東京考古学会／発行
1934年(昭和9)　「郡山横穴古墳に就て」(調査報告)『武蔵野』第21巻第2号　武蔵野会／発行
「東京府下中等学校地歴教員会の東京市内考古学上遺跡見学会」『武蔵野』第21巻第12号
1935年(昭和10)　「有栖川宮記念公園の巣箱」『庭園』第17巻第9号　日本庭園協会／発行
「窯山子採集録」『窯山子考』横井照恵／編、住吉土器研究会／発行
1941年(昭和16)　「宮城県刈田郡白石町鷹巣古墳群調査報告書」
『奥州白石産紙布織：昭和十六年十月復興展覧会記念』　奥州白石郷土工芸研究所／発行
1943年(昭和18)　「宝の峰遺跡と斎藤家」『仙台郷土研究』第13巻第8号
1964年(昭和39)　「鷹巣古墳群調査覚帳」(白石市文化財報告書:第2号)※2005年改訂
「郡山横穴古墳群調査覚帳」(白石市文化財調査報告書:第36集)※2009年改訂
1966年(昭和41)　「白石和紙沿革及技法」(白石市文化財調査報告書:第5号)
1972年(昭和47)　「白石紙すき明」片倉信光／解説　奥州白石郷土工芸研究所和紙工房／発行
1979年(昭和54)　「みちのく紙・白石紙・雁皮紙」奥州白石郷土工芸研究所／発行
「白石城」(白石市文化財報告書:第3集)※1997年第2版
2007年(平成19)　「白石地方の言葉：片倉信光集録」荘宋社／編　非売品

＊白石市教育委員会所蔵

【図２-13】パネル２－３

等ご担当いただいた。関連の図書もお持ちいただき、ケース２台を中心として展示構成した【図２－９】。右ののぞきケース２－１は陳列館旧蔵の考古学模型標本のうち、貝輪、土偶、土師器の５点セット及びこの土偶模型標本のモデルとなったスケッチが掲載されている『先史考古図譜』の該当ページを展示した【図２-10】。左の行灯ケース２－２には、円筒埴輪と人物埴輪３点、東京府の郷土史用に編纂された教科書『国史を彩どる我等の郷土　東京府』の教材が掲載されているページを開いて展示した【図２-11】。ケース背後の壁に、考古学模型標本が陳列館でどのように使われたか、解説するパネル「考古学模型標本と東京郷土資料陳列館」【図２-12】を設置した。

また、たてもの園で開催した企画展「東京郷土資料陳列館ものがたり」の時には紹介できなかった、陳列館初代学芸員片倉信光について、２枚のパネルを壁面で展示し紹介した。１枚は、武蔵野会発足のきっかけとなった1916年（大正５）７月に行われた東京市内古墳調査（鳥居龍蔵、井下清他）のルートと、陳列館のオープンを５か月後に控えた1934年（昭和９）６月、片倉信光が師匠の鳥居龍蔵を講師として行った、東京府下中等学校地歴史教員会 東京市内考古学遺跡見学会のルートを比較したものである。もう１枚は、宮城県白石市教育委員会及び東北歴史博物館研究員相原淳一氏ほかのご協力により片倉の年譜パネル【図２-13】を筆者が作成した。出口付近には、掘り出された日本列島2018中核展のバナーと地域展で展示した考古学模型標本の埴輪をモチーフとした起き上がりこぼしパンチングバッグを設置して、フォトスポットとした【図２-14】。

【図２-14】
地域展に展示した埴輪（複製）をモチーフとした起き上がりこぼしパンチングバッグ

なお、本展示内容をもとに、平田氏には、特に考古学標本模型及び陳列館初代学芸員片倉信光に関する知見を論考としてまとめ、『東京都江戸東京博物館紀要』第13号に掲載いただくこととなった[16]。

おわりに

東京郷土資料陳列館は結局、２階建ての本館建設に至らず、仮施設のまま戦後の早い時期に閉館したとみられるが、詳細は解明できていない。前島によれば、残った資料と陳列ケースは1948年（昭和23）10月、井の頭自然文化園内に設置された武蔵野博物館に移され[17]、その後武蔵野郷土館、江戸東京たてもの園と引き継がれた。下布田遺跡展の図録[18]に陳列館を紹介してから７年の月日が流れた今日、不十分ではあるが、陳列館に関する２つの展覧会の事業報告をまとめることができた。陳列館旧蔵資料の全貌解明、片倉信光の陳列館での活動など、課題は残っており、今後も調査・研究を続けたいと考えている。

【註】

1）加藤功ほか「【小特集】武蔵野郷土館の活動と考古学」（編集：松井かおる）『東京都江戸東京博物館紀要』第５号（2015年）
2）企画展図録『下布田遺跡―武蔵野の歴史と考古学―』江戸東京たてもの園（2015年）
3）前島康彦『東京公園文庫38 有栖川宮記念公園』郷学舎（1981年）
4）前島（1981年）
5）『東京市公報』（1938年４月23日）
6）井下清「郷土の歴史とその発達を市民に周知せしむべし」（『第七回全国都市問題会議研究報告』（1940年））前島康彦／編『井下清著作集 都市と緑』財団法人東京都公園協会（1973年）
7）前島（1981年）。同書で前島は、陳列館の資料収集・展示を東京市の社会教育課が担当せず、公園課の職員が行ったことを報告しており、それは、公園課が文化財保護の前身である史蹟名勝天然記念物保存行政を担当していたこと、井下が専門家はだしの関心と知識を持っていたことが理由と指摘している。陳列館が開館した年に國學院大学を卒業した片倉信光が学芸員として開館準備にあたったが、1931年に同大学史学科を卒業して、井下の部下として史蹟名勝天然記念物指定のための調査に奔走していた前島自身も井下とともに展示のコンセプトを作成し、開館時の資料収集、解説文・図表・図面・年表の作成も協力して行ったものと思われる。また、1934年６月28日付の『東京市公報』に陳列館について、東京に関する種々の資料を収集して収容するものであるが、江戸趣味方面の資料は藤澤衛彦（小説家・民俗学者）、演芸方面は渥美清太郎（雑誌「演芸画報」編集者）、音曲方面は町田嘉章（三味線演奏家・音楽評論家）の三氏が収集中であるという記事があるが、開館後の展示構成に反映されたのは江戸東京の郷土玩具のみで、それ以外は項目も見当たらず、江戸東京たてもの園に引き継がれた陳列館旧蔵資料のなかにも見当たらない。
　また、1934年３月、東京市公園課は井下が鳥居龍蔵とともに大正期に立ち上げた郷土史研究グループ「武蔵野会」に展示資料の具体案を諮問し、協力を仰いでいる。『武蔵野』第21巻第４号、武蔵野会（1934年）
8）前島（1981年）
9）『東京市公報』（1938年４月23日）
10）井下（1940年）
11）井下（1940年）
12）石枡内部の彫文は以下。「御本丸懸玉川上水石枡十二ヶ所寛政八丙辰年十一月新彫刻之」（江戸城本丸に懸かる玉川上水の十二ヶ所の石枡を1796年＝寛政８年11月、新調する）
13）前島康彦『東京公園文庫1 日比谷公園』郷学舎（初版1980年）
14）本紀要所収、肥留間論考を参照。
15）陳列館のキャプションに「松平土佐守屋敷趾発掘の際出土せるもの」と記されているが、これは1894年（明治27）、土佐藩上屋敷跡に竣工した東京府庁舎建設工事、あるいは1898年（明治31）に建設された東京市庁舎の工事にともなう発掘調査で出土したものと思われる。瓦の背面には針金が付いており、陳列館の江戸城関係の展示壁面に括り付けて展示したことが想像される。
16）本紀要所収、平田論考を参照。
17）前島（1981年）
18）註２参照。

【謝辞】

本稿の執筆にあたり、ご協力を賜りました関係諸機関、その他の皆様に厚く御礼申し上げます。

公益財団法人東京都公園協会　　東京都公文書館　　パリノ・サーヴェイ株式会社
宮城県白石市教育委員会　　武蔵野文化協会　　（五十音順・敬称略）

特に、今回の企画展・地域展での多大なご協力はもちろん、関連する論考をご寄稿いただきました肥留間博様、平田健様には、末筆ながら改めまして感謝申し上げます。